

会社概要データ版



会社概要データ版2000

2000年7月発行

 **日産自動車株式会社**

広報部

東京都中央区銀座6丁目17番1号〒104-8023

TEL.03-5565-2141 (ダイヤルイン)

日産自動車ホームページ <http://www.nissan.co.jp/>

企業情報ページ <http://global.nissan.co.jp/>



目 次

・ 会社概況

会社概況	1
役員	2
沿革	3
ルノーとの提携	5
日産リバイバル・プラン	6
グローバル体制	7
国内主要事業所	9
グローバルオペレーション	11
海外駐在員事務所	11
海外車両生産拠点	11

・ 営業概況

業績推移	13
部門別販売実績	13
生産・輸出・国内登録実績	14
生産・輸出・国内登録累計	14
車名別国内生産・国内登録・ 輸出実績ベスト5	15
主要国新車販売実績	15
地域別輸出実績	15
国別輸出実績ベスト5	16
海外生産実績	16
最近の達成記録	16
乗用車・商用車一覧	17
モデルチェンジの歴史(国内)	19
車名の由来	23
日産車の海外名称一覧	24
国内販売網	25
日産ビジネスカレッジ	25

・ 環境・安全・I T S等への取り組み

環境への取り組み	26
安全への取り組み	28
A S V - 2(Advanced Safety Vehicle : 先進安全自動車)	29
I T Sへの取り組み	30
ライフケアビークル: L V(福祉車両)	31

・ 社会・文化活動

文化活動・芸術支援活動	32
人材育成プログラムの実施	32
海外支援・異文化交流	32
社会福祉・環境保護活動への支援	33
地域活動・社員の社会参加	33
日産科学振興財団	34

・ サークル活動・プロサッカーチーム

重点サークル	34
プロサッカーチーム 「横浜F・マリノス」	34

・ 主要関係会社

国内主要関係会社	35
自動車整備専門学校	37
海外主要出資会社	39

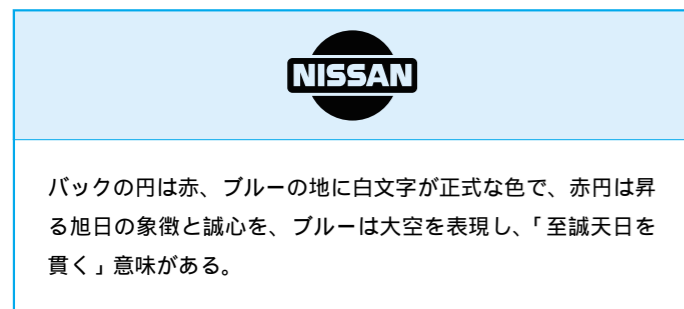
会社概況

会社概況

2000年3月末現在

会社名	日産自動車株式会社 (NISSAN MOTOR CO.,LTD.)		
創立	1933 (昭和8) 年12月26日		
本社所在地	〒104-8023 東京都中央区銀座六丁目17番1号 TEL. 03-3543-5523(代)		
本店所在地	〒220-8623 横浜市神奈川区宝町2番地		
会社の目的	1. 次の品目及びその部品並びに関連資材の開発、製造、売買、賃貸借及び修理 (1) 自動車、産業車両及びその他の輸送用機器 (2) 内燃機関及びその他動力機械器具 (3) 船舶及び船用機関 (4) 宇宙機器、ロケット飛しょう体及び飛しょう体関連装置、航空機並びに兵器 (5) 繊維機械 (6) 工作機械、プレス機械、鋳鍛造機械、組立機械設備、型治工具及び測定機器 (7) 各種燃料、潤滑油及びその他石油製品 2. 前号の事業に関連するエンジニアリング、コンサルティング及び技術指導並びに前号各品目に関連する発明考案、デザイン、ノウハウ、技術情報等の開発、売買、供与及び仲介 3. 情報通信、情報処理、情報提供サービス並びにソフトウェア、情報通信機器及び事務用機器の開発、売買及び賃貸借 4. 不動産の売買、賃貸借、仲介、管理及び駐車場の経営並びに警備業 5. 土木、建築の設計、施工、請負及び監理 6. 電気工事業、電気通信工事及び機械器具設置工事業 7. 金融業及び有価証券の売買 8. 陸上運送業、海上運送業、航空運送業、倉庫業及び旅行業 9. 教育、医療、スポーツ、遊園地、展示場、マリナー、飲食、宿泊等の施設及びこれらに附帯する売店等の施設の取得、運営及び管理 10. スポーツクラブの運営及び管理並びにスポーツの興行 11. 労働者派遣業 12. 製版、印刷、製本及び図書、印刷物の出版並びに広告宣伝業 13. 損害保険代理業及び生命保険募集業 14. 前各号に附帯関連する一切の事業		
資本金	496,605百万円		
株式	発行済株式	3,977,293,751株	
	授權株数	6,000,000,000株	
	期末単位株主数	102,755名	
従業員数	32,707名	男子 30,747名	女子 1,960名

コーポレートマーク



社名の由来

日産自動車株式会社

当社は、昭和8年12月26日に日本産業(株)と戸畑鑄物(株)の共同出資で、ダットサン及び自動車部品の製造・販売を行う「自動車製造株式会社」(社長：鮎川義介)として設立されたが、翌9年6月1日、日本産業(略称：日産)の全額出資となり、社名を「日産自動車株式会社」と改称した。

役員

取締役

2000年7月1日現在

代表取締役	はなわ よし かず 塙 義 一	取締役	おおく ぼ のぶ お 大久保 宣 夫
代表取締役	カルロス ゴーン Carlos Ghosn	取締役	まつ むら のり お 松 村 矩 雄
取締役	もり やま ひろし 森 山 寛	取締役	パトリック ペラタ Patrick Pélata
取締役	こ じま ひさ よし 小 島 久 義	取締役	ティエリム ロンゲ Thierry Moulounguet
取締役	こ えだ いたる 小 枝 至		

執行役員

会長 最高経営責任者	はなわ よし かず 塙 義 一	常務	たか はし ただ お 高 橋 忠 生
社長 最高執行責任者 人事部、関係会社管理部統括 TQM推進室、広報部、法務室担当	カルロス ゴーン Carlos Ghosn	常務	こ だま りょう そ 児 玉 了 三
副社長 国内営業部門、部品事業部統括 営業総務室担当	もり やま ひろし 森 山 寛	常務	あ べ えい いち 阿 部 栄 一
副社長 生産部門、パワートレイン事業部門、産業機械事業部統括	こ じま ひさ よし 小 島 久 義	常務	さ さ き くに あき 佐々木 邦 昭
副社長 購買部門統括	こ えだ いたる 小 枝 至	常務	こ じま あき ひろ 小 島 章 宏
副社長 技術・開発部門統括 車両3-3-3推進室、資源統括本部担当 資源統括本部長委嘱	おおく ぼ のぶ お 大久保 宣 夫	常務	イアン ギブソン Ian Gibson
副社長 海外部門統括 北米・欧州事業担当 北米日産社長委嘱	まつ むら のり お 松 村 矩 雄	常務	きた じま たかし 北 島 孝
副社長 企画部門統括 企画室、プログラム管理室、商品企画本部、デザイン本部担当	パトリック ペラタ Patrick Pélata	常務	やま がた しゅう じ 山 岡 秀 司
副社長・最高財務責任者 経理部、財務部、商品利益管理室、情報システム本部担当	ティエリム ロンゲ Thierry Moulounguet	常務	いま い えい じ 今 井 英 二
副会長 渉外部門統括 渉外部担当	あん らく かね みつ 安 樂 兼 光	常務	きた ほら ゆき お 北 洞 幸 雄
常務 お客様サービス本部、知的財産部、技術システム部、環境・安全技術部、 車両評価・実験部、第二車両開発部担当	なか むら いけお 仲 村 厳	常務	たけ べ けい すけ 竹 辺 圭 祐
常務 栃木工場(パワートレイン事業部門)、パワートレイン事業本部、横浜工場、 いわき工場担当 パワートレイン事業本部長委嘱	かわ さき はじめ 川 崎 肇	常務	とみ い し ろう 富 井 史 郎
常務 材料技術部、生産技術本部担当 生産技術本部長委嘱	たか ぎ しげる 高 木 茂	常務	し が とし ゆき 志 賀 俊 之
常務 人事部、ジェネラル・サポート部担当 人事部長委嘱	あお き まさ ひこ 青 木 征 彦	常務	ベルナル レイ Bernard Rey
		常務	ジャン ジャック ル ゴフ Jean-Jacques Le Goff

監査役

監査役(常勤)	たけ い ただ お 竹 井 忠 夫	監査役(常勤)	たけ なか はる ひこ 竹 中 治 彦
監査役(常勤)	よし まつ しょう ぞう 吉 松 正 造	監査役	なか むら ひで あ 中 村 英 男

沿革

< 歴代社長任期 >

代	氏名	任期
初代	あいかわ 鮎川 義介	S8.12～ S14.5
2代	むらかみ 村上 正輔	S14.5～ S17.2

年月	主要事項
(昭8) 1933.12	自動車製造(株)、資本金1,000万円で横浜市に設立、取締役社長に鮎川義介就任
34.5	横浜工場完成(治工具の製作開始)
6	社名を日産自動車(株)と改称 「ダットサン」をアジア、中南米などに向けて輸出開始(計44台)
(昭10) 35.4	横浜工場で一貫生産を開始
5	社章制定
(昭15) 40.3	満州同和自動車工業向けにKD輸出を開始
43.8	吉原工場完成('43.10稼働開始)
12	第2次世界大戦に伴い、乗用車・トラック共全面的に生産中止
44.9	日産重工業(株)と改称
(昭20) 45.11	戦後第1号車オフライン
49.8	社名を日産自動車(株)に復帰
(昭25) 50.5	民生ディーゼル工業(現日産ディーゼル工業)に資本参加
52.12	英国オースチン社と技術提携
57.8	フォークリフト第1号車オフライン
58.6	乗用車の対米輸出開始
9	第6回豪州一周ラリーに「ダットサン」初出場、1台がAクラス優勝
59.3	台湾・裕隆社、日産の海外KD工場として生産開始
(昭35) 60.3	英国オースチン社との技術提携終了
6	第10回デミング賞実施賞を受賞
9	米国日産設立
61.9	メキシコ日産設立('66.7生産開始)
62.3	追浜工場完成('61.10一部稼働開始)
(昭40) 65.5	座間工場完成('64.12一部稼働開始)
66.5	豪州日産設立
8	プリンス自動車工業と合併
67.7	本牧専用埠頭完成
68.1	本社事務所、東京銀座の新社屋に移転
(昭45) 70.2	L-4Sロケット5号機による日本初の人工衛星「おおすみ」打上げ成功(ロケット本体及びロケット・エンジンの開発・製作を担当)
3	マリーン事業に進出
71.3	栃木工場完成('68.10一部稼働開始)
72.9	生産累計1,000万台達成
73.10	相模原部品センター完成('72.4一部稼働開始)
74.4	日産科学振興財団設立
75.6	国内登録累計1,000万台達成

年月	主要事項
(昭50) 76.3	豪州日産製造設立、生産開始
77.6	九州工場完成('75.4一部稼働開始)
7	生産累計2,000万台達成
79.4	米国に日産デザインインターナショナル社設立
(昭55) 80.1	スペインのモートル・イベリカ社に資本参加
1	輸出累計1,000万台達成
7	米国日産製造設立('83.6「ダットサントラック」、'85.3「サニー」第1号車オフライン)
81.6	蒲原工場完成、稼働開始
7	輸出ブランド名を「NISSAN」に統一する方針発表
8	生産累計3,000万台達成
11	テクニカルセンター完成
82.3	横浜工場久里浜分工場完成('82.5稼働開始)
4	サファリラリー4年連続完全制覇
12	新コーポレートマーク発表
83.1	スペインの日産モートル・イベリカ、日産車(「サファリ」)の生産開始
7	米国に日産リサーチ&ディベロプメント会社設立
84.4	英国日産製造設立('86.7生産開始)
5	国内登録累計2,000万台達成
11	追浜専用埠頭完成
(昭60) 85.7	台湾の裕隆社に資本参加
8	生産累計4,000万台達成
86.12	企業理念、経営指針発表
87.1	「パルサー」、「エクサ」、「ラングレー」、「リベルタピラ」が'86-'87日本カー・オブ・ザ・イヤーを受賞
4	輸出累計2,000万台達成
8	H-ロケットによる技術試験衛星「きく5号」打上げ成功(当社開発の国産初アポジモータ等を採用)
88.6	ニッサン・ヨーロッパ・テクノロジー・センター社設立 英国
(平1) 89.1	「シルビア」が'88-'89日本カー・オブ・ザ・イヤーを受賞
4	欧州日産会社(欧州統括会社)及び日産欧州物流会社設立('90.4営業開始)
90.1	北米日産会社(米国統括会社)設立('90.4営業開始)
1	生産累計5,000万台達成
8	フロンガス削減計画を発表
11	タイ・サイアム社に資本参加
91.3	英国に新たなディストリビューター英国日産自動車会社を設立('92.1営業開始)

3代	あきはら 浅原 源七	S17.3～ S19.9	6代	やまもと 山本 惣治	S20.10～ S22.5	9代	かわまた 川又 克二	S32.11～ S48.11	12代	くめ 久米 豊	S60.6～ H4.6	15代	カルロス ゴーン Carlos Ghosn	H12.6～
4代	くどう 工藤 治人	S19.9～ S20.6	7代	みのうら 箕浦 多一	S22.5～ S26.10	10代	いわこし 岩越 忠恕	S48.11～ S52.6	13代	つじ 辻 義文	H4.6～ H8.6			
5代	むらやま 村山 威士	S20.6～ S20.10	8代	あきはら 浅原 源七	S26.10～ S32.11	11代	いしはら 石原 俊	S52.6～ S60.6	14代	はなわ 塙 義一	H8.6～ H12.6			

年月	主要事項
6	購入部品会社等で組織する協力を再編成し、新協力会「日翔会」を設立
92.1	北海道陸別試験場設立(寒冷地用試験場)
4	九州新工場完成、稼働開始
6	米国日産製造にて米国第3の現地生産車「アルティマ(日本名:ブルーバード)」の生産開始
8	英国日産製造にて英国第2の現地生産車「マイクラ(日本名:マーチ)」の生産開始
9	豪州日産鑄造会社設立
10	国内登録累計3,000万台達成
11	ドイツにニッサン・デザイン・ヨーロッパ会社設立
11	「マーチ」が欧州カー・オブ・ザ・イヤー1993を受賞
12	「マーチ」が1992～1993RJCニューカー・オブ・ザ・イヤー、'92～'93日本カー・オブ・ザ・イヤーを受賞
93.2	日産モートル・イベリカにて新型四輪駆動車「テラノ」生産開始
3	中国における商用車の合弁会社「鄭州日産汽車有限公司」を設立
9	アジア地域専用車「ADリゾート(ワゴン・ピックアップ)」をタイ・台湾で生産・発売開始
10	米国に日産物流会社を設立
94.1	いわき工場生産開始
2	H-ロケット1号機打ち上げ成功(固体ロケットブースター(SRB)及び火工品等の開発・製造を担当)
4	乗用車事業において韓国三星重工業と技術援助契約を締結('95.3三星自動車設立)
6	中国向け配給会社「日産汽車(中国)有限公司」を香港に設立
6	UAEのドバイに統括会社「中東日産」を設立
12	生産累計6,000万台達成
12	中国の南京汽車とアトラスのキャブに関する技術移転契約を締結
95.3	座間工場での車両組立て終了
5	インドネシアで合弁会社「イスマック日産製造株式会社」を設立
6	生産拠点のグローバル化促進、部品輸入の拡大等に関する「グローバル構造改革方針」を策定
96.10	海外での累計生産台数が1,000万台を突破
97.5	米国日産自動車製造、デカード市のエンジン・トランスミッション新工場で生産を開始
5	電気モーターとガソリンエンジンを組み合わせた「ハイブリッド車」を開発

年月	主要事項
9	無段変速機HYPER CVT搭載車の発売を開始
12	直噴ガソリンエンジン搭載車の発売を開始
98.2	「自動車のリサイクル自主行動計画」を策定
4	宇宙航空事業部「富岡事業所」完成、5月稼働開始
5	「日産自動車のグローバル事業革新」を策定
6	ル・マン24時間レースにおいてニッサンR390GT1、3位入賞
6	直噴ディーゼルエンジン搭載車の発売を開始
9	「日産環境会議」を千葉幕張メッセにて開催
12	インターネットを活用した商談予約システムを構築
99.3	ルノーと資本参加を含むグローバルな提携契約に調印
3	国内全生産7工場及び商品開発部門での環境マネジメント国際規格ISO14001認証取得を完了
4	日産テクシス(株)が持つウォータージェット織機事業を豊田自動織機製作所へ譲渡
5	メタノール改質式燃料電池車の走行試験を開始
6	富士工場及び自動変速機・無段変速機開発部門を分離独立、トランステクノロジー株式会社を設立
7	輸出累計3,000万台達成
10	トランステクノロジー(株)とジャトコ(株)が合併し、「ジャトコ・トランステクノロジー株式会社」として営業開始
10	新世代トランスミッション「エクストロイドCVT」搭載車の発売を開始
10	「日産リバイバル・プラン」を発表
11	「セドリック/グロリア」が1999～2000RJCニューカー・オブ・ザ・イヤーを、「エクストロイドCVT」が1999～2000テクノロジー・オブ・ザ・イヤーを受賞
12	新業態大型店舗「カレスト座間」の営業を開始
00.2	超小型電気自動車「ハイパーミニ」の発売を開始
2	極超低排出ガス車「セントラCA」を米カリフォルニア州で発売開始
3	「ティーノハイブリッド」を発表
4	米国日産自動車製造会社を北米日産会社に統合
4	先進安全研究車「日産ASV-2」を開発
4	九州工場内に「専用外航バス」を開設
4	「ADバン」CNGV(圧縮天然ガス自動車)を「超一低排出ガス車」として発売開始
5	日産の販売会社にてルノー車の販売を開始

ルノーとの提携

日産自動車とルノーは1999年3月27日、日産自動車の財務体質強化を図り、両社が互いに利益ある成長を達成するためのグローバルかつ広範な提携を結びました。この提携は、お互いのブランドアイデンティティを尊重しながら、両社間における全てのシナジー効果を推進していくものです。

新しい企業連合としての日産・ルノーグループは、生産台数約480万台を誇る自動車グループとなります。

組織

両社間の事業協力やシナジー効果を最大限に発揮・推進させるため、戦略策定の意思決定機関としてGAC (Global Alliance Committee) を設置。また、想定されるシナジー効果についてGACに実行計画を提案する機能として、主要な11のテーマ (*注) ごとに、日産自動車とルノー双方で構成された共同プロジェクトチームCCT (Cross Company Team) を発足しました。

(注) CCTのテーマ

「商品企画・戦略」「車両開発」「パワートレイン」「購買・物流・サービス」「製造」「地域ごとのマーケティング・販売 (6地域)」

これまでに決定したアライアンスの主な具体例

メキシコ

ルノーはメキシコ日産の生産・販売支援によりメキシコ市場に低コストで復帰。メキシコ日産は工場稼働率向上、商品ラインアップの充実を図る。

- ・ルノーは2001年にセニックを投入
- ・2000年から10年間の生産計画台数は120万台 (日産向け: 80万台、ルノー向け: 40万台)

< 1999.12.9発表 >

日本

ルノーは日産の支援により、低コストで日本市場の販売を強化。

- ・2000年中に日産の販売拠点約50拠点でルノー車の販売を開始
- ・長期的には日産のルノー車販売拠点数を150拠点以上に拡大
- ・2004年1万5千台、長期的には3万台の販売を目指す

< 2000.4.25発表 >

南米メルコスール

日産はルノーの生産・販売支援により、南米メルコスール市場でのプレゼンスを高める。

- ・日産の新型フロンティアを2002年よりルノーのブラジル工場生産
- ・2005年までにメルコスール内で日産車5車種を生産、販売目標は2010年までに15万台以上
- ・2010年までに日産とルノーは合計シェアを15%まで高める

< 2000.5.29発表 >



日産・ルノー提携 調印式



クリオを囲む開発メンバー (於メキシコ日産)

日産リバイバル・プラン

日産自動車は1999年10月18日、グローバルで包括的な再建計画として「日産リバイバル・プラン」を発表しました。このプランは、魅力ある商品開発による事業の発展と市場でのプレゼンス向上、並びにコストの削減を通じて、競争力を有するグローバル企業への転換を図り、継続的な利益ある成長を果たしていくことを目指すものです。

必達目標

- ・2000年度連結当期利益黒字化
- ・2002年度連結営業利益率4.5%達成
- ・2002年度末までに連結有利子負債を7,000億円以下に削減

プランの策定

プランの策定にあたっては、9つの重要テーマ (*注) ごとに部門横断的なプロジェクトチーム「クロス・ファンクショナル・チーム (CFT)」を設置し、テーマごとに改革のアイデアを立案しました。

(注) CFTのテーマ

「事業の発展」「購買」「製造」「研究開発」「販売・マーケティング」「一般管理費」「財務コスト」「車種削減」「組織と意思決定プロセス」*「設備投資」*プラン策定後に追加

プランの主な内容

事業の発展

コスト削減の原資を商品開発に充て新商品の投入、自動車関連事業の発展を図る。

- ・2000~02年度の3年間にグローバルで合計22車種の新型車を投入
- ・連結設備投資額を25%増加 (連結売上高比 約5%)

購買

購買の集中化、グローバル化及び取引先の半減により調達コストの削減を図る。

- ・総コストの60%を占める購買コストを2000~02年度の3年間で20%削減

製造

最適な生産効率及びグローバルでのコスト競争力を実現する為、国内の過剰生産能力を削減する。

- ・5工場での車両及びパワートレインの生産中止 (車両組立工場...村山工場、日産車体京都工場、パワートレイン工場...久里浜工場、九州エンジン工場、愛知機械港工場)
- ・上記以外の工場における生産性・稼働率の向上

研究開発

企業競争力の核となる研究開発分野の絞り込みとルノーとの開発分業体制の構築により、資源の効率化・重点化を図る。

販売・一般管理費

グローバルオペレーションの効率を高めるため非効率部分の削減、組織改正、人員削減を行う。

- ・一般管理費20%削減
- ・国内営業、研究開発部門の組織改正
- ・北米オペレーションの合理化
- ・欧州販売マーケティング機能の見直し
- ・グローバルで21,000人の人員削減

財務コスト

ノンコア資産の売却により、自動車事業への集中と有利子負債削減を進める。

- ・保有株式の売却
- ・ノンコアビジネス資産の売却
- ・在庫の30%削減

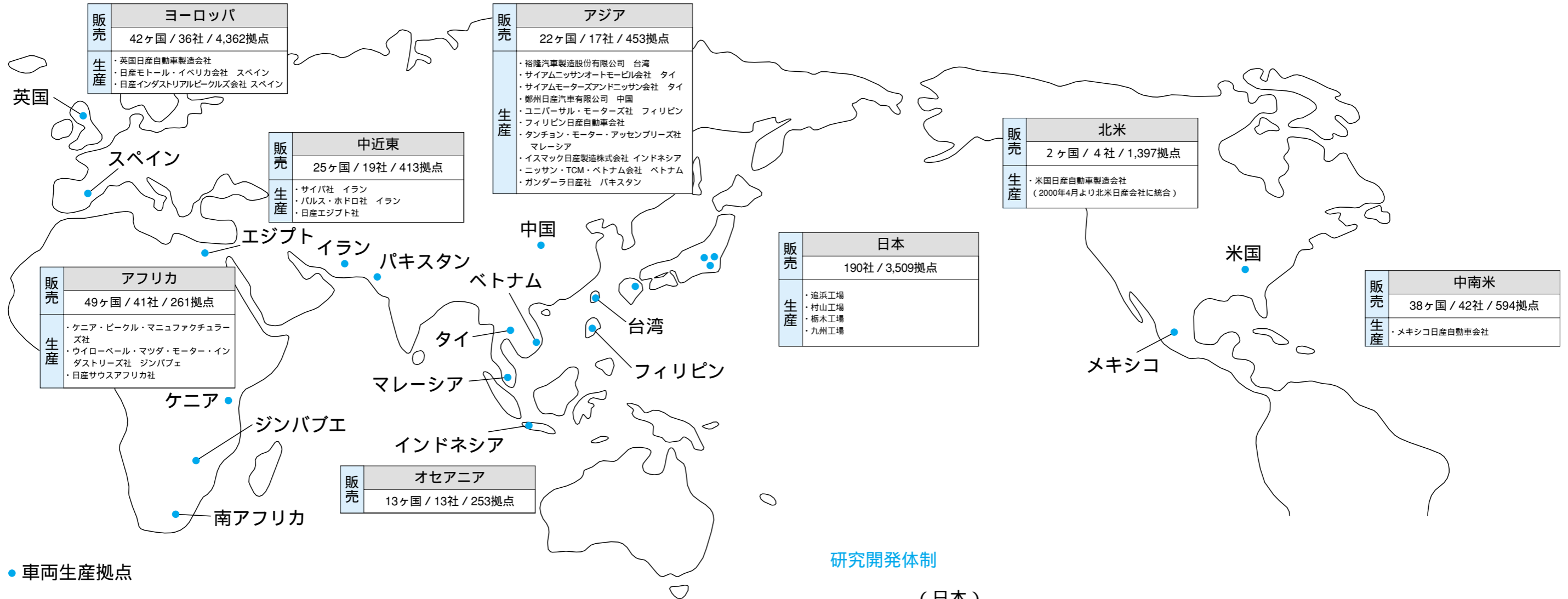
組織と意思決定プロセス

プラン実行に向け、組織のグローバル化と意思決定の効率化を図る。

- ・欧米では重要な意思決定機関としてマネジメントコミッティを設置
- ・グローバルな戦略立案機能の強化と実行段階における各地域への権限委譲の強化

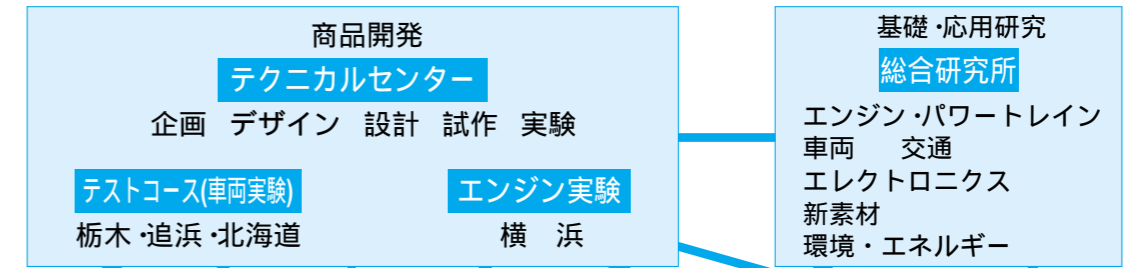
グローバル体制

生産・販売体制(2000年3月末現在)

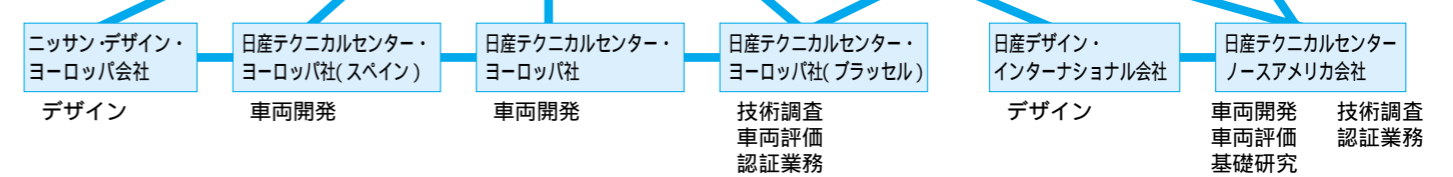


研究開発体制

(日本)



(欧州)



アリソナ・テスト・センター社
実験(車両評価、高速耐久性、耐熱性等)

販売網

海外販売網合計	
仕向国数	191ヶ国
N S C 数	172社
ディーラー数	7,733拠点
国内販売網合計	
販売会社数	190社
拠点数	3,509拠点

N S C National Sales Company

国内主要事業所

2000年7月現在

事業所名称	所在地	稼働開始年月	土地面積 千㎡	従業員数 2000年3月現在 名	主な事業内容 / 生産品目
本社	〒104-8023 東京都中央区銀座6-17-1 Tel 03-3543-5523(代)	1968. 1	10	2,000	事業全体の戦略的運営及び統括
お客様サービス本部	〒221-0013 神奈川県横浜市神奈川区新子安1-17-1 Tel 045-435-1111(国内サービス技術部ダイヤルイン)	1995. 7	5	220	お客様相談、国内・海外のサービス業務、日産及び日産圏の生産車品質保証
テクニカルセンター	〒243-0192 神奈川県厚木市岡津古久560-2 Tel 046-270-1220(研究設計総務部ダイヤルイン)	1981.11	1,159	5,500	技術開発、商品開発および外製部品の購入
北海道陸別試験場	〒089-4356 北海道足寄郡陸別町字林内48-1 Tel 01562-7-2121(代)	1992. 1	7,076	-	車両実験・評価
いわき工場	〒971-8183 福島県いわき市泉町下川大剣386番地 Tel 0246-75-1123(代)	1994. 1	205	490	エンジンの組立・機械加工・鋳造
栃木工場	〒329-0692 栃木県河内郡上三川町上蒲生2500 Tel 0285-56-1204(総務部ダイヤルイン)	1968.10	2,971	5,700	プレジデント・シーマ・セドリック・グロリア・プレサージュ・バサラ・ルネッサの生産、アクスルの組立・機械加工、鋳造、車両実験・評価
村山工場	〒208-8523 東京都武蔵村山市榎1-1 Tel 042-563-5000(総務部ダイヤルイン)	1962. 7	1,284	2,800	ローレル・スカイライン・プレセア・マーチ・ステージア・ティーノ・キューブの生産、フォークリフトの設計開発・生産、車両実験・評価
横浜工場	〒220-8623 神奈川県横浜市神奈川区宝町 2 Tel 045-461-7304(総務部ダイヤルイン)	1935. 4	572	3,380	エンジンの組立・機械加工、アクスルプレス・溶接・機械加工・組立、鋳造、鍛造、焼結、エンジンの実験・評価、金型の設計・製造
本牧専用埠頭	〒231-0812 神奈川県横浜市中区錦町 8 Tel 045-621-2901(海外生産物流部総務課ダイヤルイン)	1967. 7	331	190	海外向け車両および部品の出荷、KD部品の梱包・出荷・輸入部品受け入れ
追浜工場	〒237-8523 神奈川県横須賀市夏島町 1 Tel 0468-67-5000(工場総務課ダイヤルイン) Tel 0468-67-5142(総合研究所ダイヤルイン)	1961.10	1,720	4,200	マキシマ・セフィーロ・ブルーバード・プリメーラの生産、車両実験・評価
総合研究所		1961. 4			基礎研究開発
追浜専用埠頭		1983. 5			海外および国内向け車両の出荷
久里浜工場	〒239-0835 神奈川県横須賀市佐原2-2-2 Tel 0468-33-2605(総務課ダイヤルイン)	1982. 5	141	340	エンジンの組立・機械加工、アクスル部品溶接・機械加工、マリーン製品の設計開発
座間事業所	〒228-8502 神奈川県座間市広野台2-10-1 Tel 046-252-3211(座間事業所総務課ダイヤルイン)	1964.12	795	1,100	型・治工具・設備の設計開発および製造
相模原部品センター	〒228-8523 神奈川県相模原市麻溝台1-4-1 Tel 046-252-3211(総務グループダイヤルイン)	1972. 4	428	590	国内・海外向けサービス部品の調達・出荷
九州工場	〒800-0395 福岡県京都郡苅田町新浜町1-3 Tel 093-435-1111(総務部ダイヤルイン)	1975. 4	2,483	5,000	シルビア・サニー・パルサー・テラノ・テラノレグラスの生産、エンジン・アクスルの組立・機械加工、KD部品の梱包
苅田専用埠頭		1991. 5			海外および国内向け車両の出荷
日産教育センター	〒241-0014 神奈川県横浜市旭区市沢町910 Tel 045-371-5523(日産教育センターダイヤルイン) Tel 045-371-5521(日産ビジネスカレッジダイヤルイン) Tel 045-371-2990(日産メカニック・ビジネス専門学校ダイヤルイン)	1962. 5	63	330	販売会社に対する教育の企画および実施
		1989. 4			自動車整備士及びカーライフアドバイザーの養成
日産サービス開発センター	〒236-0004 神奈川県横浜市金沢区福浦3-7 Tel 045-785-0023(代)	1985.10	17	70	海外日産圏に対するサービス各研修及び国内、海外向けサービス資料の作成、診断器の開発、国内外日産圏に対する板金・塗装教育の企画及び実施

事業所配置図



注)各事業所の土地面積には厚生用地等を含む

グローバルオペレーション

海外統括会社 2000年3月末現在

地域	国名	名称	設立年月	従業員数(人)
北米	米国 (カリフォルニア州ガーズ市)	北米日産会社 Nissan North America, Inc.	1990.1 *1	2,212
欧州	オランダ (アムステルダム市)	欧州日産会社 Nissan Europe N.V.	1989.4	591
中南米	メキシコ (メキシコ市)	メキシコ日産自動車会社 Nissan Mexicana S.A. de C.V.	1995.1 *2	27 *3
中近東	アラブ 首長国連邦 (ドバイ)	中東日産会社 Nissan Middle East FZE.	1994.6	65

- *1 事業部統括機能開始年月
*2 営業統括機能移管年月
*3 営業統括部門在籍人員

海外駐在員事務所

2000年3月末現在

地域	国名	名称	設立年月
アジア	タイ	アセアン事務所 Asean Office	1957
アジア	中華人民共和国	北京事務所 Beijing Office	1985.3
アジア	インドネシア	ジャカルタ事務所 Jakarta Office	1991.10

海外車両生産拠点

2000年3月末現在

地域	国名	会社名	所在地	生産開始年月	従業員数(人)	生産・組立車両(国内呼称)
北米	アメリカ	米国日産自動車製造会社(注) 2000年4月より 北米日産会社に統合 Nissan Motor Manufacturing Corporation U.S.A.	テネシー州 スマーナ市	1983.6	5,771	ダットサン、*エクステラ、*アルティマ(*は現地のみ)
欧州	イギリス	英国日産自動車製造会社 Nissan Motor Manufacturing (UK) Ltd.	タインアンドウェア州 サンダーランド市	1986.7	4,200	プリメーラ、アルメーラ、マーチ
	スペイン	日産モートル・イベリカ会社 Nissan Motor Ibérica, S.A.	バルセロナ市	1983.1	3,900	サファリ、ミストラル、セレナ、*バネット・カーゴ(*は現地のみ)
アジア	台湾	裕隆汽車製造股P有限公司 Yulon Motor Co., Ltd.	苗栗県三義	1959.3	2,600	セフィーロ、サニー、マーチ、アトラス、ADリゾート
	中国	鄭州日産汽車有限公司 Zhengzhou Nissan Automobile Co., Ltd.	鄭州市	1995.10	2,400	ダットサン
アジア	タイ	サイアムニッサンオートモービル会社 Siam Nissan Automobile Co., Ltd.	サムトプラ カーン県	1977.9	1,198	ダットサン
	タイ	サイアムモーターズアンドニッサン会社 Siam Motors & Nissan Co., Ltd.	サムトプラ カーン県	1962.8	321	セフィーロ、サニー、ADリゾート
アジア	フィリピン	ユニバーサル・モーターズ社 Universal Motors Corporation.	マニラ市	1972.1	156	ダットサン、サファリ、テラノ、キャラバン
	フィリピン	フィリピン日産自動車会社 Nissan Motor Philippines, Inc.	サンタローサ市	1983.6	531	セフィーロ、サニー、ADリゾート、ラルゴ
アジア	マレーシア	タンチョン・モーター・アッセンブリーズ社 Tan Chong Motor Assemblies Sdn. Bhd.	クアラルン プール市	1976.8	790	サニー、ADリゾート、セフィーロ、バネット、アトラス、テラノ、セレナ
	インドネシア	イスマック日産製造株式会社 P.T. Ismac Nissan Manufacturing	西部ジャワ州 ブルワカルタ市	1996.10	-	セドリック、セフィーロ、サニー、テラノ
アジア	ベトナム	日産TCMベトナム会社 Nissan TCM Vietnam Co, Ltd.	ダナン市	-	-	検討中
	パキスタン	ガンダーラ日産社 Ghandhara Nissan Ltd.	カラチ市	1997.1	165	サニー
中南米	メキシコ	メキシコ日産自動車会社 Nissan Mexicana, S.A. de C.V.	メキシコ市	1966.7	9,000	サニー、ルキノ、ダットサン、ADワゴン、
中近東	イラン	サイパ社 S.A.I.P.A. Co.	テヘラン市	1983.2	3,000	ジュニア
	イラン	パルス・ホドロ社 Pars Khodro Co.	テヘラン市	1987.2	2,325	サファリ
中近東	エジプト	日産エジプト社 Nissan Egypt S.A.E.	シックス オクトーバー市	1997.12	500	ダットサン
	ケニア	ケニア・ビークル・マニュファクチュラーズ社 Kenya Vehicle Manufacturers Ltd.	ティカ市	1978.1	400	キャラバン
アフリカ	ジンバブエ	ウィローベール・マツダ・モーター・インダストリーズ社 Willowvale Mazda Motor Industries (Pvt.) Ltd.	ハラレ市	1999.6	740	ダットサン
	南アフリカ	日産サウスアフリカ社 Nissan South Africa (Pty.) Ltd.	プレトリア市	1963	3,395	パルサー、サニートラック、ダットサン

当社直接出資会社
当社間接出資会社

注) このほかに米国フォード社(Ford Motor Co.)と多目的車「クレスト」に関する共同事業を行っている。
(開発:日産 生産:フォード社オハイオ工場、'92年4月に生産開始)

業績推移

年度		1997年度 ('97.4 ~ '98.3)	1998年度 ('98.4 ~ '99.3)	1999年度 ('99.4 ~ '00.3)
連結 ベース	売上高(百万円)	6,564,637	6,580,001	5,977,075
	国内	3,070,185	2,863,603	2,626,866
	海外	3,494,452	3,716,398	3,350,209
	営業利益(百万円)	84,346	109,722	82,565
	経常利益(百万円)	4,695	24,463	1,642
	当期利益(百万円)	14,007	27,714	684,363
	設備投資(億円)	2,807	2,458	2,442
	研究開発費(億円)	-	-	2,386
単 独 ベ ー ス	売上高(百万円)	3,546,126	3,319,659	2,997,020
	国内	1,921,124	1,722,093	1,546,744
	海外	1,625,002	1,597,565	1,450,275
	営業利益(百万円)	85,626	15,165	15,674
	経常利益(百万円)	57,707	14,646	35,850
	当期利益(百万円)	16,548	34,809	790,064
	資本金(百万円)	203,755	203,755	496,605
	設備投資(億円)	1,064	997	809
研究開発費(億円)	2,080	2,130	-	

部門別販売実績

単位：台、百万円

部門	年度	1997年度 ('97.4 ~ '98.3)		1998年度 ('98.4 ~ '99.3)		1999年度 ('99.4 ~ '00.3)	
		台数	売上高	台数	売上高	台数	売上高
車 両	乗用車	1,447,644	2,526,886	1,355,082	2,350,681	1,159,290	2,069,515
	商用車	237,859	277,899	229,468	265,855	197,285	239,638
	合計	1,685,503	2,804,785	1,584,550	2,616,537	1,356,575	2,309,154
海外生産用部品		-	276,264	-	221,383	-	246,628
部品・その他		-	368,902	-	386,523	-	355,573
宇宙航空		-	44,035	-	51,157	-	45,911
フォークリフト・マリン		-	52,138	-	44,057	-	39,751
	合計	-	3,546,126	-	3,319,659	-	2,997,020

生産・輸出・国内登録実績

単位：台、%

年度	1997年度 ('97.4 ~ '98.3)	前年比	1998年度 ('98.4 ~ '99.3)	前年比	1999年度 ('99.4 ~ '00.3)	前年比	
							グローバル生産
	商用車	490,210	85.8	418,780	85.4	541,153	129.2
	計	2,754,598	100.4	2,465,863	89.5	2,404,650	97.5
国内生産	乗用車	1,463,705	100.3	1,330,481	90.9	1,163,181	87.4
	商用車	207,805	101.9	197,980	95.3	173,737	87.8
	計	1,671,510	100.5	1,528,461	91.4	1,336,918	87.5
海外生産	乗用車	800,683	112.4	716,602	89.5	700,316	97.7
	商用車	282,405	76.8	220,800	78.2	367,416	166.4
	計	1,083,088	100.3	937,402	86.5	1,067,732	113.9
	海外生産比率	39.3		38.0		44.4	
輸出	乗用車	617,339	119.1	586,445	95.2	520,174	88.7
	商用車	94,053	118.0	124,400	130.8	91,816	73.8
	計	711,392	118.9	710,845	99.9	611,990	86.1
	国内生産における輸出比率	42.6		46.5		45.8	
国内登録	乗用車	690,142	83.4	665,511	96.4	538,957	81.0
	商用車	277,027	91.3	195,900	70.7	221,182	112.9
	計	967,169	85.5	861,411	89.1	760,139	88.2
	シェア(除軽)	20.4		20.4		19.1	
	全需(除軽)	4,748,638		4,214,907		3,981,601	
	全需(含軽)	6,281,700		5,875,595		5,890,269	

国内登録には海外生産車を含む

生産・輸出・国内登録累計

2000年3月末現在

	累計 (台)
国内生産	68,379,986
海外生産	13,664,098
グローバル生産	82,044,084
輸出	30,484,993
国内登録	37,560,688

国内登録には海外生産車を含む

車名別国内生産・国内登録・輸出実績ベスト5

単位：台

年度	1位	2位	3位	4位	5位	
国内生産	1997年	パルサー 196,413	マーチ 139,570	マキシマ 132,733	セフィーロ 129,160	テラノ 117,480
	1998年	パルサー 189,552	キューブ 120,298	マキシマ 109,608	サニー 104,916	テラノ 90,292
	1999年	マキシマ 158,601	パルサー 103,553	テラノ 103,363	サニー 88,118	セフィーロ 79,800
国内登録	1997年	マーチ 126,963	サニー 75,213	パルサー 51,069	セフィーロ 45,801	ローレル 38,831
	1998年	キューブ 113,095	マーチ 79,440	サニー 66,065	プレサージュ 38,210	スカイライン 34,363
	1999年	キューブ 79,380	セレナ 63,142	マーチ 58,910	サニー 55,865	エルグランド 49,558
輸出	1997年	マキシマ 136,434	パルサー 135,711	テラノ 108,658	セフィーロ 83,632	ダットサン 59,270
	1998年	パルサー 157,372	マキシマ 107,169	テラノ 87,124	ダットサン 85,990	サファリ 70,070
	1999年	マキシマ 150,599	テラノ 96,440	パルサー 87,423	ダットサン 65,960	セフィーロ 64,960

車名は日本での名称で記載
 セレナは乗用車・商用車の合計
 エルグランドはキャラバンエルグランドとホームーエルグランドの合計

主要国新車販売実績

単位：台、%

暦年	1997年		1998年		1999年	
	前年比	前年比	前年比	前年比		
日本	1,042,675	93.4	903,572	86.7	773,602	85.6
アメリカ	728,377	97.1	621,528	85.3	677,212	109.0
西欧	469,231	107.9	502,790	107.2	485,269	96.5
イギリス	101,393	103.0	106,478	105.0	100,453	94.3
ドイツ	93,813	103.7	96,021	102.4	78,254	81.5
スペイン	60,427	122.1	70,282	116.3	74,303	105.7
メキシコ	93,816	159.0	139,518	148.7	134,937	96.7

日本の販売実績には海外生産車を含む
 西欧は主要17ヶ国

地域別輸出実績

単位：台、%

地域	1997年		1998年		1999年	
	構成比	構成比	構成比	構成比		
北米	294,429	41.4	247,053	34.8	293,884	48.0
欧州	151,517	21.3	197,705	27.8	117,450	19.2
東南アジア	82,465	11.6	38,025	5.3	60,946	10.0
中南米	29,779	4.2	28,724	4.0	26,924	4.4
中近東	90,198	12.7	121,043	17.0	55,123	9.0
大洋州	44,483	6.2	57,406	8.1	48,966	8.0
アフリカ	17,601	2.5	19,520	2.7	7,769	1.3
国際機関等	920	0.1	1,369	0.3	928	0.1
合計	711,392	100.0	710,845	100.0	611,990	100.0

国別輸出実績ベスト5

単位：台、%

順位	1997年		1998年		1999年	
	構成比	構成比	構成比	構成比		
1位	アメリカ 273,509	38.4	アメリカ 229,503	32.3	アメリカ 271,063	44.3
2位	オーストラリア 36,427	5.1	オーストラリア 48,742	6.9	オーストラリア 40,366	6.6
3位	サウジアラビア 35,600	5.0	サウジアラビア 46,256	6.5	サウジアラビア 25,559	4.2
4位	ドイツ 31,737	4.5	ドイツ 37,328	5.3	カナダ 22,821	3.7
5位	中国 26,067	3.7	イギリス 26,687	3.8	スペイン 18,967	3.1

海外生産実績

単位：台、%

生産拠点	1997年		1998年		1999年	
	前年比	前年比	前年比	前年比		
米 国	396,887	96.8	279,392	70.4	348,214	124.6
英 国	277,509	111.9	275,993	99.5	286,865	103.9
ス ペ イ ン	99,885	92.7	96,000	96.1	105,245	109.6
メ キ シ コ	184,699	126.0	169,339	91.7	216,140	127.6
そ の 他	124,108	74.1	116,678	94.0	111,268	95.4
合 計	1,083,088	100.3	937,402	86.5	1,067,732	113.9

最近の達成記録

('92年3月以降)

乗用車生産累計4,000万台達成 ('92. 3)	横浜工場エンジン生産累計3,000万台達成 ('97. 9)
追浜工場生産累計1,000万台達成 ('92. 9)	いわき工場VQエンジン生産累計100万台達成 ('97.10)
国内登録累計3,000万台達成 ('92.10)	パルサー（乗用車）国内生産累計400万台達成 ('97.12)
九州工場生産累計500万台達成 ('92.11)	サニー（乗用車）国内登録累計500万台達成 ('97.12)
メキシコ日産生産累計150万台達成 ('92.11)	テラノ国内生産累計100万台達成 ('98. 7)
ブルーバード国内生産累計800万台達成 ('94. 5)	九州工場第2工場生産累計100万台達成 ('98. 8)
国内生産累計6,000万台達成 ('94.12)	英国日産製造マイクラ生産累計100万台達成 ('99. 9)
英国日産製造生産累計100万台達成 ('95. 1)	プリメーラ欧州販売累計100万台達成 ('99. 9)
海外生産累計1,000万台達成 ('96.10)	九州工場生産累計800万台達成 ('00. 6)
マーチグローバル生産累計300万台達成 ('97. 4)	

モデルチェンジの歴史(国内)

(1931年～1959年)

2000年6月末現在

発売時期	'31	'32	'33	'34	'35	'36	'37	'38	'39	'40	'41	'42	'43	'44	'45	'46	'47	'48	'49	'50	'51	'52	'53	'54	'55	'56	'57	'58	'59
車名	(昭6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	(21)	(22)	(23)	(24)	(25)	(26)	(27)	(28)	(29)	(30)	(31)	(32)	(33)	(34)
ダットサン(乗用車) (ブルーバード) (トラック) (キャブライト)	▶8月▶3月(10型)ダットサン													▶7月(10T型)	▶11月(DA型) ▶9月(DS型) ▶3月(DB型) ▶11月(1121型) ▶12月(1157型) ▶11月(110型) ▶12月(110型) ▶10月(210型) ▶8月(210型) ▶8月(210型)ダットサンスポーツ ▶8月(210型)ダットサンブルーバード														
ニッサン(ジュニア) (キャブオール) (パトロール) (乗用車) (トラック) (バス)	▶6月(70型)													▶6月(80型)	▶6月(90型)	▶9月(4W60型) ▶2月(380型) ▶2月(480型) ▶2月(290型) ▶2月(390型) ▶2月(490型) ▶2月(590型) ▶5月(680型) ▶5月(690型) ▶3月(580型) ▶5月(490型) ▶12月(590型) ▶5月(680型) ▶5月(690型) ▶62年1月(40型) ▶70年10月(140型) ▶76年9月生産中止 ▶72年9月生産中止													
プリンス(乗用車) (グローリア) (トラック) (マイラー) (キャブオーバートラック)	▶5月 たま電気自動車(E4S/EMS)													▶5月(80型)	▶6月(90型)	▶3月乗用車(AISH型) ▶4月スカイライン ▶3月トラック(AFTF型) ▶9月(ARTH型) ▶62年8月(T430型) ▶67年(T446型) ▶70年生産中止 ▶5月(AKTG型)キャブオーバートラック ▶10月(AQT型) ▶2月(BLSH型) ▶プリンスグローリア ▶ニッサンプリンスマイラー													

(1960～2000)

発売時期	'60	'61	'62	'63	'64	'65	'66	'67	'68	'69	'70	'71	'72	'73	'74	'75	'76	'77	'78	'79	'80	'81	'82	'83	'84	'85	'86	'87	'88	'89	'90	'91	'92	'93	'94	'95	'96	'97	'98	'99	'00
車名	(昭35)	(36)	(37)	(38)	(39)	(40)	(41)	(42)	(43)	(44)	(45)	(46)	(47)	(48)	(49)	(50)	(51)	(52)	(53)	(54)	(55)	(56)	(57)	(58)	(59)	(60)	(61)	(62)	(63)	(平1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)
プレジデント	▶2月 セドリックスペシャル(50型)													▶10月(150型)プレジデント	▶8月(250型) ▶10月(JG50型)																										
インフィニティQ45														▶11月(G50型)インフィニティQ45																											
シーマ														▶8月(FY32型)シーマ ▶6月(FY33型)																											
セドリック	▶4月(30型)セドリック													▶10月(130型)	▶2月(230型)	▶6月(330型)	▶6月(430型)	▶6月(Y30型)	▶6月(Y31型)	▶6月(Y32型)	▶6月(Y33型)	▶6月(Y34型)																			
グローリア	プリンスグローリア(BLSI型)													▶9月(S40型)	▶4月(A30型)	▶2月(230型)	▶6月(330型)	▶6月(430型)	▶6月(Y30型)	▶6月(Y31型)	▶6月(Y32型)	▶6月(Y33型)	▶6月(Y34型)																		
レパードJ.フェリー														▶6月(JY32型)レパードJ.フェリー																											
レパード														▶9月(F30型)レパード ▶2月(F31型) ▶3月(JY33型) ▶6月生産中止																											
マキシマ														▶5月(U11型) ▶10月(J30型)																											
ローレル														▶4月(C30型)ローレル	▶4月(C130型)	▶1月(C230型)	▶11月(C31型)	▶10月(C32型)	▶1月(C33型)	▶1月(C34型)	▶6月(C35型)																				
セフィーロ														▶9月(A31型) ▶8月(A32型) ▶12月(A33型)																											
スカイライン	(ALSI型)プリンススカイライン													▶11月(S50型)	▶8月(C10型)	▶9月(C110型)	▶8月(C210型)	▶8月(R30型)	▶8月(R31型)	▶5月(R32型)	▶8月(R33型)	▶5月(R34型)																			
ブルーバード	ダットサンブルーバード(310型)													▶9月(410型)	▶8月(510型)	▶8月(610型) ▶11月中止	▶7月(810型)	▶11月(910型)	▶10月(U11型)	▶10月(U11型)	▶9月(U12型)	▶9月(U13型)	▶1月(U14型)																		
プリメーラ														▶2月(P10型)プリメーラ ▶9月(P11型)																											
プレセア														▶6月(R10型)プレセア ▶1月(R11型)																											
サニー	ダットサンサニー													▶4月(B10型)	▶1月(B110型)	▶5月(B210型)	▶10月(B310型)	▶10月(B11型)	▶9月(B12型)	▶1月(B13型)	▶1月(B14型)	▶10月(B15型)																			
パルサー														▶10月(E10型)チェリー ▶9月(F10型)チェリーF ▶5月(N10型)パルサー ▶4月(N12型) ▶5月(N13型) ▶8月(N14型) ▶1月(N15型)																											
マーチ														▶10月(K10型)マーチ ▶1月(K11型)																											
ハイパーミニ														▶2月(EA02)																											
ダットサンスポーツ	(S211型)																																								
フェアレディZ	▶1月(SPL212型)													▶10月(SP310型)ダットサンフェアレディ	▶10月(S30型)ニッサンフェアレディZ	▶8月(S130型)	▶9月(Z31型)	▶7月(Z32型)																							
シルビア	ダットサンフェアレディ													▶4月(CSP311型)	▶10月(S10型)	▶3月(S110型)	▶8月(S12型)	▶5月(S13型)	▶10月(S14型)	▶1月(S15型)																					
180SX														▶4月(RS13型)180SX ▶12月生産中止																											
ステージア														▶10月(WC34型)ステージア																											

車名の由来

車名	発売年月	意味・由来
プレジデント	1965.10	「大統領、総裁または社長」の意。
シーマ	'88. 1	スペイン語で「頂上」「完成」の意。
セドリック	'60. 4	パーネットの名作「小公子」の主人公の名にちなむ。
グロリア	'59. 2	「栄光」の意。
ローレル	'68. 4	「月桂冠」の意。
セフィーロ	'88. 9	スペイン語で「そよ風」「地中海に春をもたらす西風」の意。
スカイライン	'57. 4	「山並みと青空を区切る稜線」の意。
クルー	'93. 7	「仲間」「一団」「搭乗員」の意。
ブルーバード	'59. 8	メーテルリンクの童話「青い鳥」にちなむ。
プリメーラ	'90. 2	スペイン語で「第一級の」「最高級の」の意。
プレセア	'90. 6	スペイン語で「宝石」「大切なもの」の意。
サニー	'66. 4	「太陽がいっぱい」「明るく快活で若々しい」の意。
パルサー	'78. 5	「規則正しい周期でパルス電波を発信している宇宙空間の小さな電波源」の意。
マーチ	'82.10	「行進曲」「行進」の意。
フェアレディZ	'60. 1	フェアレディは「美しいお嬢さん」の意。Zは未知への可能性と夢を意味するサブネーム。
シルビア	'65. 4	ギリシャ神話の美しい清楚な乙女の名。語源はラテン語で「森」の意。
ステージア	'96. 9	「STAGE」に「Advance」の「A」を組み合わせた造語
アベニール	'90. 5	アベニールはフランス語で「将来」「未来」の意。
ウイングロード	'96. 5	市街地からアウトドアまで、ライフエリアの大きな広がりイメージさせる翼(WING)と道(ROAD)をあわせた造語。
ラシーン	'94.12	旅の水先案内役をイメージした「羅針盤」からの造語。
エルグランド	'97. 5	英語の定冠詞「THE」にあたるスペイン語「EL」に“偉大な”を意味する「GRAND」を組み合わせた造語
キャラバン	'73. 2	「隊商」の意。
セレナ	'91. 6	スペイン語で「晴々とした」「穏やかな」の意。
プレサージュ	'98. 6	“予感”を意味するフランス語Presage(プレザージュ)より命名。
バサラ	'99.11	「ダイヤモンド」という意味を語源に持つ日本語の「バサラ」から命名。
ティーノ	'98.12	スペイン語で「理性」「判断の正しさ」の意。
プレーリーリパティ	'82. 8	プレーリーは英語で「大草原」の意。リパティは「自由」「気まま」の意。
ルネッサ	'97.10	「ルネッサンス(RENAISSANCE): 文芸復興、再生」をイメージして名付けた造語
キューブ	'98. 2	英語で立方体という意味。
サファリ	'80. 6	狩猟・探検などの「遠征旅行」の意。
テラノ	'86. 8	ラテン語で「地球」の意のTERRAと語感を強める接尾語NOの合成語。
レグラス	'96. 8	“百獣の王”ライオンを表す星座である「獅子座」の(アルファ星)「REGULUS」にちなむ
エキスパート	'99. 6	英語で「熟練者」「達人」の意。
ADバン	'82.10	ADは「前進した」「進歩した」を意味するADVANCEDの略語。
バネット	'78.11	VANと「小さな、可愛い」の意の接尾語ETTEの合成語。
ダットサン	'34. 7	当社の前身である快進社の出資者、田(D)、青山(A)、竹内(T)の頭文字DATと「太陽」を意味するSUNの合成語。
アトラス	'81.12	ギリシャ神話で「地球を双肩に担ぐ大力無双の巨人」の意。
シビリアン	'71. 9	「市民」の意。

DATSUNの誕生について

『DATSON』は、昭和6年8月に日産自動車の前身である「ダット自動車製造」で生産された。『DAT』とは、ダット自動車製造のさらに前身の「快進社」の出資者である田健次郎(D)、青山禄郎(A)、竹内明太郎(T)の頭文字を組み合わせたもので『DATSON』は「快進社」で生産された「DAT CAR」の息子という意味で命名された。昭和7年には「SON」を太陽の「SUN」に変更し、以後『DATSUN』が日本の自動車産業を牽引していくことになる。

日産車の海外名称一覧

2000年3月末現在

型式	日本	北米	欧州	アジア	中南米	中近東	大洋州	アフリカ
JG50	PRESIDENT	-	-	PRESIDENT(香港)	-	-	-	-
FY33	CIMA	(INFINITI)Q45	-	INFINITI Q45(香港、台湾、シンガポール、タイ、中国、フィリピン)	INFINITI Q45	INFINITI Q45	-	-
Y31	CEDRIC/GLORIA	-	-	公爵(中国)	-	CEDRIC	-	CEDRIC
Y33				CEDRIC(シンガポール、インドネシア)		GLORIA		
Y34				GLORIA(香港)				
A32	CEFIRO	(INFINITI)I30	MAXIMA QX	CEFIRO	INFINITI I30(メキシコ)	MAXIMA	MAXIMA	MAXIMA
A33			QX(イギリスのみ)	風度(中国)	MAXIMA			
A33		MAXIMA			MAXIMA(メキシコ)			
R34	SKYLINE	-	SKYLINE GT-R(イギリス)	SKYLINE(香港、シンガポール)	-	-	SKYLINE(ニュージーランド)	-
U13	BLUEBIRD	-	-	藍鳥(中国)	-	-	-	-
U14				BLUEBIRD(ブルネイ)				
L30		ALTIMA	-	-	ALTIMA(メキシコ)	-	-	-
P11	PRIMERA	(INFINITI)G20	PRIMERA	PRIMERA	PRIMERA	PRIMERA	PRIMERA(ニュージーランド)	PRIMERA
WP11	PRIMERA WAGON	-	PRIMERA WAGON	-	-	-	PRIMERA WAGON(ニュージーランド)	-
S14	SILVIA	-	200SX	-	-	-	200SX	-
S15								
B13				SENTRA(フィリピン)	SENTRA(メキシコ輸出分)			
				SUNNY(インドネシア)	TSURU(メキシコ)			
B14	SUNNY	SENTRA(セダン)	-	SUNNY(タイ)	SENTRA	SUNNY(セダン)	-	SUNNY(セダン)
B15				SENTRA(フィリピン、マレーシア、台湾)				
				SUNNY VIP(シンガポール)				
B14					LUCINO(メキシコ)	-	-	-
N14								SENTRA(南ア)
N15	PULSAR	-	ALMERA NX ALMERA(イタリアのみ)	-	ALMERA	-	PULSAR	-
N16			ALMERA	SUNNY(香港、シンガポール)	-	-	PULSAR(オーストラリア)	-
				陽光(中国)				
K11	MARCH	-	MICRA	MARCH(台湾、シンガポール)	MARCH(カリブ)	-	-	-
E30		ALTRA EV	-	-	-	-	-	-
Y10	WINGROAD	-	SUNNY WAGON	N-RV(台湾)	AD WAGON	-	PULSAR WAGON(ニュージーランド)	AD WAGON
Y11			SUNNY TRAVELLER(ドイツのみ)	WINGROAD(シンガポール)	TSUBAME(メキシコ)	-		
				AD RESORT(マレーシア、フィリピン)	WINGROAD(カリブ)			
M11				PRAIRIE JOY(シンガポール、マレーシア)	-	-	-	-
V10	TINO	-	-	-	-	-	TINO(ニュージーランド)	-
Z10	CUBE	-	-	CUBE(香港)	CUBE(カリブ)	-	-	-
260	SAFARI	-	PATROL	PATROL	PATROL	PATROL	PATROL	PATROL
Y60			PATROL GR	途案(中国)	PATROL PICKUP	PATROL PICKUP	PATROL PICKUP	PATROL PICKUP
Y61								
R50	TERRANO	PATHFINDER	PATHFINDER(ドイツ、スイス)	TERRANO(インドネシア、マレーシア、フィリピン)	PATHFINDER	PATHFINDER	PATHFINDER	-
WD21								
JR50	TERRANO REGULUS	(INFINITI) Qx4	-	INFINITI Qx4(台湾)	-	-	-	-
R20			TERRANO	TERRANO(タイ)	TERRANO	TERRANO	TERRANO	TERRANO
V40		QUEST	-	QUEST(台湾)	QUEST	-	-	-
B120								1400BAKKIE(南ア)
								1200PICKUP
D21				皮卡(中国)	NISSAN PICKUP	NISSAN PICKUP	-	NISSAN PICKUP
								HARD BODY(南ア)
D22	DATSUN	FRONTIER	PICKUP KING CAB(スウェーデン、デンマーク、イタリア、オランダ、ベルギー、アイスランド)	FRONTIER(フィリピン)	NISSAN PICKUP	NISSAN PICKUP	NAVARA	NISSAN PICKUP
				皮卡(中国)				HARD BODY(南ア)
				BIG M(タイ)				
WD22		XTERRA	-	-	XTERRA	-	-	-
TKO			ATLEON	-	-	-	-	-
140				-	-	JUNIOR	-	-
F23	ATLAS	-	CABSTAR	CABSTAR	CABSTAR	-	-	CABSTAR
				勁勇(台湾)				
				卡星(中国)				
TLO			CABSTAR E	-	-	-	-	-
E24	CARAVAN	-	-	URVAN	URVAN	URVAN	URVAN	URVAN
				佳奔(中国)			URVAN(ニュージーランド)	
E50	ELGRAND	-	-	ELGRAND(香港)	-	-	-	-
C22				VANETTE(マレーシア)	-	-	-	-
C23	SERENA	-	SERENA/VANETTE	SERENA	SERENA	-	-	-
C24			CARGO					
W40	CIVILIAN	-	-	CIVILIAN	NISSAN W41	CIVILIAN	CIVILIAN	CIVILIAN
W41				鶴運(中国)			CIVILIAN(オーストラリア)	CIVILIAN

国内販売網

2000年3月末現在

商品系列	取扱車種 (2000年6月末現在)	販売系列	販売会社数	拠点数 (含む中古車)		従業員数	
				サービス工場			
ブルーステージ ・日産系 ・モーター系	プレジデント	パルサーセリエS-RV	日産系	57	1,122	927	20,399
	シーマ	ラシーン					
	セドリック	ウイングロード					
	セドリックセダン	マーチ					
	フェアレディZ	キューブ					
	ローレル	サファリ					
	セフィーロ	テラノ					
	セフィーロワゴン	テラノレグラス					
	クルー	ダットサン					
	ステージア	エルグランド					
	プレサージュ	キャラバン					
	ブルーバード	エキスパート					
	ルネッサ	パネット					
	プレセア	ADバン					
レッドステージ ・サテオ系 ・プリンス系 ・チェリー系	シーマ	パルサーセリエS-RV	サテオ系	55	907	780	14,879
	グロリア	ラシーン					
	セドリックセダン	ウイングロード					
	スカイライン	マーチ					
	ステージア	キューブ					
	バサラ	サファリ					
	プリメーラ	エルグランド					
	プリメーラワゴン	キャラバン					
	フェアレディZ	エキスパート					
	シルビア	パネット					
プレセア	セレナ						
ティエノ	ADバン						
サニー	アトラス						
パルサー							
			1		8	7	91
合 計			190	3,509	2,886	60,507	

一部販売会社での取り扱い

日産ビジネスカレッジ (NBC)

日産自動車では、「日産ビジネスカレッジ」において、日産グループ販売会社従業員の人材育成を総合的に支援するために、先進の教育システムを導入し、営業力・サービス技術力向上などを旨とした教育を行っています。横浜の本校を核として各地域に5つの分校があります。

施設一覧

名称	所在地	名称	所在地
NBC横浜	横浜市旭区市沢町	NBC神戸	神戸市西区学園西町
NBC北海道	北海道苫小牧市新明町	NBC福岡 (若久)	福岡県京都郡苅田町若久町
NBC宮城	宮城県多賀城市町前	NBC福岡 (新浜)	福岡県京都郡苅田町新浜町
NBC名古屋	名古屋市港区港栄		

環境への取り組み

日産自動車では「人とクルマと自然の共生」を環境理念とする「環境行動計画(Ver.3)」に基づき、下記の通り様々な環境保全に積極的に取り組んでいます。

特に重要かつ緊急な課題については、リサイクル推進委員会等のテーマ別横断組織を設置するとともに、それらを統括する環境統括委員会を中心に、ISO14001環境マネジメントシステムに基づいたきめ細かいグローバルな環境保全活動を進めています。また、環境報告書を毎年発行し、環境保全活動に関する情報を積極的に公開しています。

なお、1999日産自動車環境報告書はインターネットでご覧頂けます。(http://global.nissan.co.jp/Japan/SYMBIOSIS/)

『日産環境理念・環境方針』

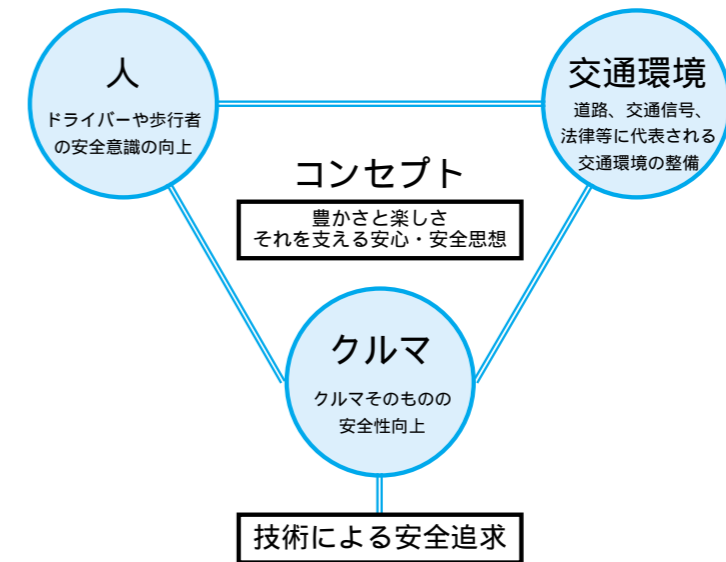
《日産環境理念》	人とクルマと自然の共生
<p>日産自動車は、環境保全の基本は人間の「やさしさ」の発露にあると考えます。われわれ一人一人が環境に対する正しい認識を深めるとともに、人や社会、自然や地球を思いやる「やさしさ」をクルマづくり、企業活動に活かし、より豊かな社会の発展に貢献します。</p>	
<p>《環境方針》</p> <p>日産自動車は、「日産環境理念」の実現のために、生産・商品開発・営業・サービス等事業活動のあらゆる分野において、以下の方針により、自主的に地球規模および地域の環境改善活動を推進します。</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. クリーンなクルマ社会実現の一層の推進 2. 省資源・省エネルギーの一層の推進 3. 環境マネジメントシステムの充実と継続的改善の推進 4. 環境報告の実施 	

最近の主な実績

'98年	<ul style="list-style-type: none"> 環境マネジメント国際規格ISO14001外部認証の取得。横浜工場(7月)、英国日産自動車製造会社(11月) ITS技術を搭載したコンセプトカー「ITS CAR 2001-i」を開発(8月) 鉛不使用のスチール製ホイール・バルンサーを開発(8月) 日産環境会議開催(9月) 新開発直噴ガソリンエンジン「NEO Di」+無段変速機「HYPER CVT」搭載車の発売。ブルーバード(9月)、プリメーラ/プリメーラ・カミノセダン/ワゴン(9月)、サニー(10月) 日産アルトラ EV、ピバンダム・チャレンジに参戦(9月) 無段変速機「HYPER CVT」搭載車を追加(燃費向上)ルネッサ(11月)、ティエノ(12月) 日産自動車追浜工場が「神奈川県地域共生型工場等」表彰を受賞(11月) アトラスにCNG(圧縮天然ガス)車を発売(11月) 直噴ガソリンエンジン搭載セフィーロ発売(12月) 	<ul style="list-style-type: none"> 「直噴ディーゼルエンジン」の採用拡大。エルグランド(8月)、サファリ、サニー(9月)、バサラ(10月) 自動車解体用フォークリフトを開発(9月) 第58回フランクフルトモーターショーにコンセプトカーの3リッターカー*「サイバクト」を出品(9月) *3リッターカー：ヨーロッパにおけるCO2排出量90g/km(軽油換算で3.4リッター/100km 30km/リッター)以下の車の呼称。 超小型電気自動車「ハイパーミニ」で共同実証実験プロジェクトに参加開発(9月) 米国環境保護庁(EPA)より「気候保全大賞」受賞(9月) 1999日産自動車環境報告書を発行(9月) 「HYPER CVT」の採用拡大。マーチ、マーチBOX、キューブ(11月) セドリック/グロリアに新世代トランスミッション「エクストロイドCVT」を世界初搭載(10月) 天然ガス自動車の発売拡大。キャラバン(11月) 2000年型日産セントラがカリフォルニアの最も過酷な排気基準、OBD基準、及びエバポ排出ゼロ規制をクリア(11月) 日産自動車、「ニッサングリーンパーツ」の供給体制を拡大(12月)
'99年	<ul style="list-style-type: none"> 排ガスを現行規制値の1/10レベルに低減したLEVの設定車種拡大。シルビア(1月) 環境マネジメント国際規格ISO14001外部認証の取得。富士工場(1月)、九州工場、いわき工場、商品開発部門(3月) 国内の生産拠点である全7工場及び商品開発部門の自動車開発プロセスでのISO14001の認証取得を完了 平成10年度「省エネ大賞」(財団法人 省エネルギーセンター主催)受賞(1月) 「NEO Di+HYPER CVT(直噴ガソリンエンジン+無段変速機)」:資源エネルギー庁長官賞 「NEO Diディーゼルエンジン(直噴ディーゼルエンジン)」:省エネルギーセンター会長賞 直噴ディーゼルエンジン搭載車種拡大。テラノ、テラノレグラス(2月) 「日産グリーンパーツ」の供給体制を拡大。(2月) エンジン冷却水のリサイクル装置「復活くん」を発売(2月) 「ティエノ ハイブリッド」の公道走行プログラムを開始(3月) 交通課題に関する小冊子「自動車交通1999」を発行(4月) メタノール改算式燃料電池車の走行試験を開始(5月) 平成12年排出ガス規制に先行して適合した直噴エンジン、ターボエンジンを搭載したセドリック、グロリアを発売(6月) 	<ul style="list-style-type: none"> 超小型電気自動車「ハイパーミニ」販売開始(2月) 米国 The California Fuel Cell Partnershipに参加(3月) 販売会社に独自の環境認定制度「日産グリーンショップ認定制度」を導入(3月) 「ティエノハイブリッド」を発表(3月) 「資源循環技術・システム表彰 通産省環境立地局長賞」受賞(3月) ADバン CNG(圧縮天然ガス自動車)運輸省低排出ガス車認定制度で初の「超一低排出ガス車」に認定(4月)
'00年	<ul style="list-style-type: none"> 「HYPER CVT」の採用拡大。ルネッサ(1月) 世界で最もクリーンなガソリン車、「セントラCA」をカリフォルニア州で発売(1月) 天然ガス自動車の発売拡大。ADバン(1月) ADバン、エキスパートを平成12、13年排出ガス規制に適合(1月) 平成11年度「新エネ大賞」(財団法人 新エネルギー財団主催)で「ハイパーミニ」が「資源エネルギー庁長官賞」を受賞(1月) 	<ul style="list-style-type: none"> 超小型電気自動車「ハイパーミニ」販売開始(2月) 米国 The California Fuel Cell Partnershipに参加(3月) 販売会社に独自の環境認定制度「日産グリーンショップ認定制度」を導入(3月) 「ティエノハイブリッド」を発表(3月) 「資源循環技術・システム表彰 通産省環境立地局長賞」受賞(3月) ADバン CNG(圧縮天然ガス自動車)運輸省低排出ガス車認定制度で初の「超一低排出ガス車」に認定(4月)

安全への取り組み

交通安全については、「クルマ」「人」「交通環境」の3つの要素を総合的に改善していくことが重要であり、日産自動車では安全なクルマづくりはもとより、交通安全意識の高揚や新しい交通環境の研究に積極的に取り組んでいます。



クルマ

日産自動車では、下記の製品安全理念に基づいて安全な車づくりに取り組んでいます。

製品安全理念

日産自動車は、グローバルに商品を提供する自動車会社として、お客さまに満足頂ける高度な車両安全性を提供するように車両の研究・開発、製造及び販売を行なう。そのために、製品安全技術を開発し実用化が可能な先進的な安全技術の採用を進めると共に、製品の安全な使用のための適切な情報をお客さまに提供する。

そして、従来のアクティブセーフティ（予防安全）とパッシブセーフティ（衝突安全）という安全思想をさらに進化させ、人とクルマの関わりからの視点から新しい安全思想、「トリプルセーフティ」（安全の3つの砦）を構築しました。この考え方にのっとり、キセノンヘッドランプの採用、ABS標準装備の推進、SRSデュアルエアバッグの標準採用、SRSサイドエアバッグ採用のほか、世界最高水準の高強度安全ボディであるゾーンボディの採用など安全仕様・装備の充実を積極的に進めています。

これらの結果、日本では運輸省が行っている自動車の安全性評価、いわゆる自動車アセスメント（JNCAP）において、日産自動車は'97～'99年度、運転席または助手席でAAA（最も優秀な安全性能）を15と日本の自動車メーカーの中で最も多く獲得しています。

トリプルセーフティ

砦1．インフォメーションセーフティ	砦2．コントロールセーフティ	砦3．インパクトセーフティ
危険を予知する安全技術	危険を回避する安全技術	被害を最小化する安全技術
クルマがドライバーをサポート	ドライバーとクルマの協調/協力	クルマが人を守る
ロングライフ撥水ガラス チタンクリアドアミラー キセノンヘッドランプ ハイマウントストップランプ 広角ドアミラー 等	アンチロックブレーキシステム 横滑り防止装置（VDC） ブレーキアシストシステム 電子制御制動力配分機能 EBD） 車間自動制御システム 等	SRSデュアルエアバッグ SRSサイドエアバッグ シートベルト ゾーンボディ チャイルドシート固定機構付シートベルト 等

項目	環境行動計画（Ver.3）の計画概要
環境マネージメント体制	・欧州環境統括委員会、北米環境統括委員会の設置
地球の温暖化の抑制	・ガソリン乗用車の燃費改善目標（2000年度）のより厳しい自主基準値の達成 ・ガソリン貨物車の燃費改善目標（2003年度）のより厳しい自主基準値の達成 ・エンジンの直噴化（ガソリン、ディーゼルエンジン） ・新冷媒HFC134aの排出抑制（省冷媒化、回収） ・新しい動力源の開発（ハイブリッドエンジン等）
オゾン層の保護	・冷媒CFC12の回収・破壊の実施
排出ガス清浄化	・国内ガソリン車排出ガス低減目標より厳しい自主基準の早期達成（ポスト53年排出ガス規制：2000年～） ・低排出ガス（LEV等）の設定拡大 ・ディーゼル車の長期規制より厳しい自主基準値の早期達成 ・ディーゼル特殊自動車（フォークリフト等）に係る排出ガス低減目標より厳しい自主基準の早期達成（2004年～） ・マリーンにおける自動車技術応用によるHC低減
代替エネルギー車の開発	・ハイブリッド自動車システムの開発 ・燃料電池自動車の研究開発
車外騒音の低減	・環境庁中央環境審議会答申目標値より厳しい自主基準値の早期達成（1998年～2000年） ・アイドリング時の車外騒音レベル低減
化学物質管理の充実	・化学物質全般についての管理の実施 ・使用物質データベース及び物質情報伝達システムの構築 ・鉛の概ね全廃（2002年）
立地における環境保全	・新規立地に際し、環境に対する影響の事前調査の実施
環境問題の未然防止	・ISO環境マネージメントシステムの導入 ・大気汚染防止への取り組み 塗装（電着）面積当り揮発性有機化合物（VOC）を2000年度を目処に1994年度比30%以上削減 ・水質汚濁防止への取り組み ・騒音・震動、悪臭問題への取り組み
地球温暖化の抑制	・2000年におけるCO ₂ 排出量の1990年レベルの安定化 ・2000年度時点での生産額当りエネルギー原単位1990年度比10%低減
廃棄物削減・リサイクル促進	・2000年度の実績当り廃棄物量を（埋立処分量）を1990年度レベルから70%削減
オゾン層の保護	・全廃目標達成
化学物質管理の充実	・化学物質組成の把握およびデータベース化の推進
緊急時対応	・「緊急時措置マニュアル」に従い定期的に緊急時措置の訓練実施
流通における環境保全	・納入部品積載効率の向上 : 90% ・納入部品パレットの樹脂化率の向上 : 100% ・サービス部品の樹脂製リターン容器率の向上 : 85%
自動車リサイクルにおける環境保全	・「自動車リサイクルにおける環境保全」として独立項目とする。 ・通産省「リサイクルイニシアティブ」にもとづく自動車リサイクル目標の早期達成（2000年～） ・新型車のリサイクル可能率90%以上（2000年～） ・使用過程及び使用済み車における回収等の取り組み ・使用済み自動車適正処理・リサイクル推進への取り組み
関係会社との協力による環境保全	・環境ネットワークミーティングの開催 ・日米欧3極環境統括委員会合同会議（グローバルカンファレンス）の開催
社会との係わりにおける環境保全	・超小型電気自動車による都市交通システムの提案 ・「グリーンオフィス運動」の推進 ・環境報告の実施（「日産環境報告の毎年発行」）

項目	概要
交通安全意識の高揚	1) ドライバーの安全意識の高揚及び幼児の安全確保に主眼を置いた「日産ハローセーフティキャンペーン」を'72年より販売会社と共に実施。 ・ 幼児が親子で交通ルールを学べる「交通安全ぬり絵ブック」、子供向けのチャイルドシート啓発ビデオ「チャイルドシートに、のろう」の販売会社での放映、一部レンタル。 ・ 新聞・ラジオ等の広告、ポスター、横断幕を通じて行う交通安全の呼びかけ。 2) 交通安全イベントへの協力。
安全に対する理解の促進	1) 交通安全の観点から車の理解促進を図るため、商品カタログに安全技術紹介頁の設定、安全ビデオの上映・貸出及び資料の頒布。 2) 安全装備の効果を高めるため、「安全装備の正しい使い方」パンフレットを配布。
その他	ファーストエイドキット（応急手当用品）の用品設定。 ファーストエイド（応急手当）の社会普及。

交通環境

項目	概要
交通環境改善への取り組み	渋滞・事故・駐車場・環境など、交通を取り巻く現代の社会問題及び将来の社会・交通システムについて、積極的に研究・提言を行っている。 ・ 社会に求められる交通将来像の予測 ・ 道路ネットワークや駐車場整備に関する研究・提言 ・ ナビゲーションシステム（道路とクルマの間で情報をやりとりすることにより円滑な交通を実現するシステム）等の官民プロジェクトへの参加

ASV-2 (Advanced Safety Vehicle : 先進安全自動車)

ASVは運輸省が推進するプロジェクトであり、日産自動車は、第1期計画（平成3～7年度）に引き続き第2期計画（平成8～12年度）にも積極的に参画しています。第2期計画に沿った「日産ASV-2」では、道路インフラとの協調によるドライバーの運転支援技術の研究開発、基盤となるヒューマン・マシン・インターフェースの研究開発や、第1期計画で日産が取り組んだシステムのさらなる高度化に加え、衝突速度低減ブレーキ付全車速域ACC*や配光制御ヘッドランプなど、多くの新技術を研究開発しました。

* ACC (Adaptive Cruise Control) : 車間自動制御システム



ITSへの取り組み

ITS (Intelligent Transport Systems : 高度道路交通システム) とは、最先端の情報通信技術と制御技術を用いて、「人」と「クルマ」と「道路」とをネットワーク化することにより、安全性、円滑性、快適性の飛躍的な向上を実現する21世紀の道路交通システムです。

日産は、ITSを実現することによって、人と社会・交通環境のバランス良い融合を図り、地球環境にやさしい新しいクルマ社会の創造と、安全で明るく楽しいカーライフの実現を目指しています。

日産自動車は、次の4つの分野からITSについての取り組みを行なっています。

安全なカーライフ	ASV(先進安全自動車)、AHS(走行支援道路システム)、UTMS(新交通管理システム)など、“ヒューマン・マシン・インターフェース”に重点を置いた安全運転支援システムの研究開発・実用化・商品化
円滑で環境にやさしいクルマ社会	バードビュー [®] ナビ、VICS(道路交通情報システム)、ETC(自動料金収受システム)など、クルマとインフラの融合を試みた研究開発・実用化・商品化
快適で楽しいカーライフ	コンパスリンク(情報提供サービス)、Mayday(緊急通報システム)、ナビアルパムなど、21世紀のマルチメディア社会に対応したカーライフの創造
新しい都市交通コンセプト	ITS技術を活用した超小型電気自動車や交通流シミュレーションの研究開発、情報発信・提案活動によるクルマと新しい都市の関わりの提案

研究開発におけるネットワーク

日産自動車は、ITSの研究開発において、国内外のさまざまなネットワークを有効に活用しながら進めています。

(財)自動車走行電子技術協会ITS/EV新交通システム研究委員会の「都市レンタカー・システム」プロジェクトに参加、2000年1月から「横浜みなとみらい21地区」において、超小型電気自動車「ハイパーミニ」を用いて、ITS技術を活用した運行管理の実証実験を行っています。

* (財)自動車走行電子技術協会ITS/EV新交通システム研究委員会「都市レンタカー・システム」環境にやさしく、利用者の利便性を重視した新しい交通システムを構築するため、ITS技術を活用したEVの利用システムの開発と、その利用システムの実験を行い、EVの普及を促進する社会実験プロジェクト。ITS機能を利用してクルマの位置検出、状態把握をする他、クルマに対して適切な情報を送信できるように、管理センターとドライバーが相互通信を行うもので、日産は、「ハイパーミニ」を20台納入し、横浜みなとみらい21地区に勤務される方々の業務用や、近隣の観光スポットをまわる観光用として車両を使用いただいています。車両には、通信機能付カーナビゲーションシステムが搭載され、情報通信により、車両、管理センター、利用者の三者間で、効率的で利便性の高い運用が行われています。

また、官庁プロジェクトのVICS、ETC、UTMS、ASV、AHSなどに参加しており、このうち運輸省、建設省各々が主催するASV (Advanced Safety Vehicle) とAHS (Advanced Cruise-Assist Highway Systems) の共同実証実験 (2000年10～12月) 及びその公開デモであるスマートクルーズ21デモ2000 (2000年11月) には、最新のITS技術を搭載した先進安全研究車「日産ASV-2」を用いて、参加することになっています。

さらに、世界会議・国際標準化・システムアーキテクチャーの構築では、官庁、関連団体、VERTIS (道路・交通・車両インテリジェント化推進協議会) などと連携して進めています。

海外では、欧州 (NTCE : 日産テクニカルセンター・ヨーロッパ社) や北米 (NTCNA : 日産テクニカルセンターノースアメリカ会社) に開発拠点を持っているほか、米国の日産ケンブリッジ基礎研究所においてヒューマン・マシーン・インターフェースの研究を行なっています。

'97年12月に「コンパスリンク(株)」を設立、'98年9月より、カーナビゲーションとデジタル携帯電話を利用し、オペレーターとの対話による新しい情報提供サービス「コンパスリンク」を全国一斉に24時間体制で開始しています。

また、走行中に自車と先行車両との車間距離を、設定された距離に自動的に保つ「車間自動制御システム」を新たに開発、'99年7月から「シーマ」に採用しています。

一方、'98年12月にITS走行制御系技術の共同開発体制強化に向けて(株)日立製作所・(株)ユニシアジェックスと、'99年3月にITS情報系分野の開発効率化、および商品力強化の推進に関してカルソニックカンセイ(株)・カルソニック(株)・(株)カンセイが2000年4月に合併)との間で、それぞれ基本合意を結ぶなど、ITS技術の研究開発・実用化・商品化に関して一層の強化を図っています。

ライフケアビークル：L V（福祉車両）

誰もが自由に移動できることをめざして

私たちが仕事や余暇などの社会生活を営む上で、「移動する」ということは、欠くことのできない大切な要素です。特に、日本における高齢化社会の進展や、身体に障害をお持ちの方の社会参加の拡大を考えると、安全で自由な移動手段を確保することは、社会全体の課題です。

そして、その実現にとりわけ大きな役割を果たすのは「クルマによる移動」と言え、福祉車両は今後益々大きな役割を担っていくものと考えています。

日産自動車は、こうした社会の要請に応え、ライフケアビークル（福祉車両）の充実を図ってまいりました。99年度の販売台数は4,414台、前年比139%と前年度同様大きな伸びとなりました。

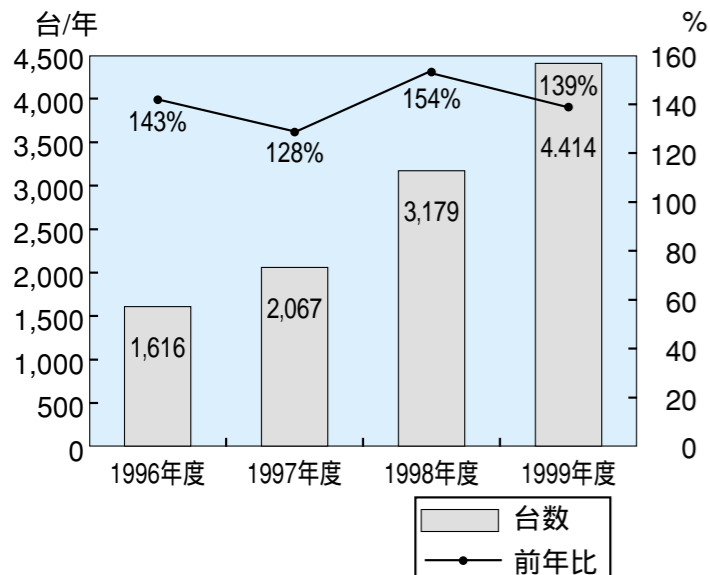
豊かな高齢化社会、福祉社会の実現に貢献していくことは、日産自動車にとって、地球環境や交通安全問題への対応と並ぶ、重要課題であります。

そのため、お年を召された方や身体に障害をお持ちの方はもちろん、全てのお客様にとって、快適で使いやすいライフケアビークルづくりを今後とも進めてまいります。

主な製品（国内向けのみを設定）

主な種類	設定車種	
アンシャンテ 車への乗り降りが 容易なシートを装 着した車	助手席回転シート	セドリック/グロリア、ローレル、セフィーロ、ブルーバード、プリメーラ、サニー、パルサー、マーチステージア、アベニール、ウイングロード、キューブ
	福祉タクシー	セドリックセダン、クルー
	助手席スライドアップシート	プレサージュ、パサラ、セレナ、プレーリーリパティ、ティーノ
	セカンド席スライドアップシート	エルグランド、セレナ
チェアキャブ 車いすのまま車内に乗り込める車	エルグランド、キャラバン、セレナ、パネットシビリアン	
ドライビングヘルパー 足の不自由な方が自分で運転するための車	サニー、マーチ、エルグランド、キューブ	

国内販売台数



セレナアンシャンテ セカンドタイプ

社会・文化活動

日産自動車では、環境や安全などクルマづくりを通じた問題に取り組むだけでなく、芸術文化・国際交流・地域活動など社会のさまざまな活動にも取り組んできました。1991年1月には、こうした活動を積極的に推進していくための専門部署として「社会文化室」を新設。社会とのコミュニケーションを通じて魅力的な企業文化をつくり、「良き企業市民」として豊かな社会づくりにかかわっていききたいという願いのもと、さまざまなフィランソロピー活動（社会貢献活動）を展開しています。

文化活動・芸術支援活動

次の社会を担う子どもの想像力を育む活動や、既成の価値観にとらわれない創造性の高い活動等への支援。

ニッサン童話と絵本のグランプリ	アマチュアを対象に毎年実施している創作童話と絵本のコンテストで、毎回約4,000編の応募作品の中から童話大賞、絵本大賞を選出する。('84~)大賞受賞作品は毎年出版し、日産の各販売会社を通じて全国の図書館(約3,400館)へ寄贈している他('85~)、各事業所を通じて、その周辺の幼稚園や保育園(約730園)にも寄贈している。('90~)
日産おはなしの部屋	全国各地の販売会社との共催で、昔ばなし研究の第一人者である小澤俊夫氏(白百合女子大学教授)を講師に、昔ばなしをテーマにした講演会を実施している。('92~)
ニッサンゆかいな絵本と童話展	毎年、こどもの城(東京・青山)で開催している子ども向けのイベント。「ニッサン童話と絵本のグランプリ」の入賞作品をはじめ、様々な童話と絵本を紹介する他、子どもたちが参加できる制作・体験コーナー等を設けている。('92~)
国際アンデルセン賞	IBBY(国際児童図書評議会)によって2年に1度子どもの本に顕著な貢献をした作家と画家に贈られる国際的な賞を、メインスポンサーとして支援している。('92~)
その他の支援イベント	・サイトウ・キネン・フェスティバル 松本 「子供のための音楽会」(松本市)を支援('92~) ・はせみつこ ことばのパフォーマンス公演を支援('95~'99)
芸術・文化への支援活動	・「草津夏期国際音楽アカデミー&フェスティバル」を支援('90~) ・内藤 礼 展覧会を支援('92,'95,'97) ・和栗由紀夫+好善社 舞踏公演を支援('96~) ・アリスフェスティバル(アジア小劇場演劇ネットワーク東京公演)を支援('96~) ・アート・コミュニケーション・サポート「ドキュメント2000プロジェクト」を支援('96~) ・若手現代芸術家共同スタジオ「スタジオ食堂」の活動を支援('97~'99) ・AGUA GALA 現代舞踏公演を支援('97~)

人材育成プログラムの実施

NPOとパートナーシップを組み、次代を担う若い世代の人材育成プログラムを実施。

日産NPOラーニング奨学金制度	NPOを経験したいという学生を公募・選抜し、NPOにおける仕事への報酬として学生に「奨学金」を支給するもの。専門的かつ自律的な行動の求められるNPOで学生が「知的」経験を積み、社会に巣立つ一助とすることが狙い。本制度は「若者」「教育」「未来」への投資と位置づけている。
-----------------	--

海外支援・異文化交流

現代の日本の姿を正しく伝える活動、異なる文化との相互理解を深めるための活動などへの支援。

海外研究機関・NPO(非営利団体)等への支援	・英国オックスフォード大学「日産日本問題研究所」設立基金を寄付('79) 専用建屋建設資金('90)ならびに新講座設立資金を寄付('90~'94) ・米国ハーバード大学アジアセンター設立資金を寄付('97~) ・(財)オイスカにマレーシアでの活動用車両を寄贈('97) ・(財)ユニセフ協会へ車両を寄贈('98) ・日本英語交流連盟(ESUJ)ディベート大会を支援('98~)
日本の文化芸術の理解促進	・仏国の古い教会を日本人芸術家と地元住民が現代芸術作品として修復・再生する「サン・ヴィゴール・ド・ミュー礼拝堂プロジェクト」を支援('93~)

社会福祉・環境保護活動への支援

社会福祉活動や環境保護活動への支援、また国内外の被災地への援助。

社会福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・全国交通安全母の会へ寄付（'80～） ・社会福祉法人NHK厚生文化事業団へ車両を寄贈（'81～） ・日本テレビ24時間チャリティー番組へ福祉車両を寄贈（累計167台）（'78～）さらに、社員ボランティアによるチャリティーバザーを実施、収益金を寄付（'85～） ・難病と闘う子どもとその家族を支援する「『ファミリーハウス』運営委員会」に、家族の宿泊施設として社員寮（2部屋）を提供（'94～'99） ・かながわ・ゆめ国体へ寄付（'98） ・IYF「チルドレンズ・アワー募金」への寄付（'99）
環境保全	<ul style="list-style-type: none"> ・経団連自然保護基金へ寄付（'92、'95～） ・（財）グリーンジャパンセンター（産業廃棄物のリサイクル推進）へ寄付（'76～） ・自然保護活動団体「自然・文化創造会議／工場（C.C.C.）」に超低排出ガス車2台を提供（'97） ・「全国一斉自然しらべ」への支援（'99～） ・「全国学校ピオトープ・コンクール」への支援（'99～）
被災地援助	<ul style="list-style-type: none"> ・阪神・淡路大震災義援金を寄付並びに救援物資運搬支援のため従業員を派遣。社員のボランティア活動支援策として特別有給休暇等を設定（'95） ・ロシア船籍タンカー重油流出事故義援金を寄付並びに作業着を提供（'97） ・北関東・東北集中豪雨被災地へボランティア送迎車両を貸与、復旧ボランティアとして従業員を派遣（'98） ・台湾大地震被災地へ義援金を寄付並びに救援物資を提供（'99）

地域活動・社員の社会参加

事業所地域への貢献活動。

地域交流	工場敷地内で工場生産工程の見学会をはじめとしたさまざまなイベントを実施するほか、模擬店などを出店する「オープンデー」を実施。（'86～：各工場）
	各種施設及び車両実験風景の公開、アイデア車両コンテストなど、さまざまなイベントを実施するほか、模擬店などを出店する「開発祭」を実施。約4万人の人で賑わう。（'86～：テクニカルセンター）
教育支援	社会科授業の一環として、年間20万人以上の小学生の工場見学を実施。（各工場）
スポーツの振興	小・中・高校生や主婦を対象に「日産卓球スクール」（神奈川県横浜市）を開校。コーチとして、卓球部のOBが指導にあっている。（'85～）
施設の開放・イベントの実施	会場として追浜地区構内を提供し、「NISSAN CUP神奈川県トライアスロン選手権大会」を開催、無線班として社員がボランティア参加。（'88～：追浜工場）'99から車いすマラソンも開催。
	日産カップ卓球大会他各種スポーツ大会の実施。（各工場）

社員の社会参加（ボランティア活動等）への支援。

社会参加プログラム トライアングル (TRY-ANGLE)	社会参加（ボランティア活動等）情報を希望する社員及びその家族が興味のある活動分野を登録。その登録内容に応じた情報を随時提供している。（'93～）
日産ボランティア 活動資金支援制度	社員が直接関わるボランティア活動の資金や施設・団体に寄贈したい物品の購入資金を援助するほか、社員が行った寄付と同額をその団体に寄付（マッチングギフト）する制度を導入。（'96～）
その他	手話や車イス、環境問題など、ボランティア活動に必要な最低限の知識や技術等を修得する「フィランソロピー講習会」を開催。（'94～）
	青年海外協力隊休職制度の実施（'75～）

海外の日産グループ各社の主な活動...それぞれの地域に密着した社会貢献活動を実施。

ニッサン基金(米国)	'92年より、基金として毎年100万ドルずつ5年間にわたり積み立て、その運用益を全米マイノリティー援助組織「L.A.アーバンリーグ」などに寄付。ロサンゼルス・サウスセントラル地区のマイノリティーの教育・訓練・雇用促進などに活用されている。（'92～：北米日産）
ユナイテッド・ウェイへの支援 (米国・カナダ)	社員から集めた寄付金に加え、会社がその同額を寄付し（マッチング・ギフト制度）、全米最大の慈善団体である「ユナイテッド・ウェイ」の活動を支援。（'82～：米国日産製造、カナダ日産 他）
ミールズ・オン・ホイールズ (カナダ)	社員ボランティアが事務所近隣のひとり暮らしの老人や病人などに食事を配達。配達車両および燃料費は、会社が負担している。（'90～：カナダ日産）
ニッサン・デイに福祉団体へ寄付 (ノルウェー)	販売店へのカタログの売上の一部を基金とし、350,000クローンを福祉団体等(ガンと闘う子どもを支援する団体など)へ寄付。寄付先は9月23日の「ニッサン・デイ」に、ラジオ局の協力の下、リスナーの投票で選ばれる。（'95～：ノルウェー日産）
ナショナル・チルドレンズ・ホームへの 支援(英国)	貧困や難病などハンディキャップを持つ子どもたちとその家族を支援する団体「ナショナル・チルドレンズ・ホーム」の活動に、英国の日産グループ3社が、寄付、車両の寄贈、社員の募金活動など様々な形で支援。（'94～：英国日産製造、英国日産、日産テクニカルセンター・ヨーロッパ社）

日産科学振興財団

日産自動車では、わが国の学術の進展に寄与することを目的に、1974年4月、創立40周年を記念して、日産科学振興財団（理事長：辻 義文）を設立しました。以来、主として自然科学分野の学術研究助成を中心に、関連分野のシンポジウムの主催、研究集会の援助等を行っています。

また1993年には、財団設立20周年を記念して学術研究に於いて国内外から特に注目される顕著な成果を挙げた中堅・若手研究者に対し、その業績を称え一層の研究活動を奨励することを目的とした日産科学賞を創設しました。なお、財団基金は2000年3月末で約72億円となっています。

事業実績推移

単位：百万円、()内は件数

内容	年度	1974～'92	'93	'94	'95	'96	'97	'98	'99	累計
研究助成		3,234 (483)	205 (62)	210 (56)	207 (57)	200 (57)	200 (54)	200 (55)	194 (53)	4,651 (877)
公開シンポジウムの開催他		192 (250)	5 (8)	10 (7)	9 (8)	8 (7)	9 (7)	5 (6)	5 (6)	243 (299)
計		3,426	210	220	217	208	209	205	199	4,894

研究助成には、93年度より、日産科学賞を含む。（93年度3件、94年度2件、95年度2件、96年度2件、97年度2件、98年度2件、99年度2件）

サークル活動・プロサッカーチーム

重点サークル

日産自動車では、従業員の士気の高揚および一体感の醸成などを目的として、現在「硬式野球部」「硬式卓球部」「陸上競技部」の3つの重点サークルを設け、活動を進めています。

硬式野球部

1959年創部

'98年度	第69回都市対抗野球大会 優勝 第52回ペーブルス杯争奪全国社会人野球大会 優勝
'99年度	第70回都市対抗野球大会 ベスト8 第53回ペーブルス杯争奪全国社会人野球大会 ベスト4 第55回社会人野球東京スポニチ大会 優勝

硬式卓球部

男子 / 1960年創部

'97年度	日本卓球リーグ前期・後期大会 全日本卓球選手権大会・団体の部	} 公式戦4大会完全優勝、 3年連続グランドスラム達成
'99年度	全日本実業団卓球選手権大会	
'98年度	東京卓球選手権大会 高志 亮選手 シングルス第3位	
'99年度	東京卓球選手権大会 高志・陳選手 ダブルス優勝 全日本卓球選手権大会・個人の部 渋谷 浩選手 シングルス・ダブルス優勝 渋谷 浩選手は、9月に行われるシドニーオリンピックにも出場が決定しています。	

陸上競技部

1947年創部

'98年度	第52回神奈川県実業団駅伝競走大会 優勝 第43回ニューイヤー駅伝大会 出場
-------	---

プロサッカーチーム「横浜 F・マリノス」

日産自動車サッカー部は、1972年の創部以来、社会人チームとして天皇杯全日本サッカー選手権大会史上最多6度の優勝を果たすなど輝かしい実績を残し、1993年プロサッカーリーグ、Jリーグの開幕にあたって、「横浜マリノス」として参加。1995年はサントリーシリーズ及びチャンピオンシップで活躍を続けています。

横浜マリノスの運営・管理は、1992年に設立された「日産フットボール株式会社」で行っていましたが、1999年2月1日をもって全日空スポーツ株式会社と合併し、法人名を「横浜マリノス株式会社」、チーム名を「横浜 F・マリノス」と変更。地元根差したクラブづくりを目指しています。2000年Jリーグデビジョン1、1stステージでは「横浜 F・マリノス」になって初めての優勝を果たしています。

会社概要	会社名 チーム名の由来	横浜マリノス株式会社 横浜 F・マリノス マリノス(MARINOS)とは、スペイン語で「船乗り」のこと。7つの海を渡り、世界をめざす姿と、ホームタウンである国際的港町、横浜のイメージをオーバーラップさせている。
	取締役社長 資本金 設立 本社所在地 グラウンド所在地	野上 修三 2,860万円（出資比率：日産自動車70%、全日本空輸30%） 1992年4月1日 横浜市神奈川区新子安1-18-1 横浜市戸塚区品濃町1527 TEL:045-434-2331 TEL:045-823-2200



主要関係会社

国内主要関係会社

2000年7月1日現在

会社名	主な製品または事業内容	出資比率*1	設立年月	代表者	住 所	TEL	
車両会社	愛知機械工業(株)	車両(セレナ) エンジン、ミッション	41.60%	1949.5	なか がわ まさ と 中 川 正 人	〒456-8601 愛知県名古屋市熱田区川並町2-12	052(681)1111
	日産車体(株)	車両(フェアレディZ、アベニール、エルグランド、プレーリーリパティ、ウィングロード、ADバン、サファリ、ダットサン)	45.15%	1949.4	こ ば た け が ず た が 小 島 一 孝	〒254-8610 神奈川県平塚市天沼10-1	0463(21)8001
	日産ディーゼル工業(株)	アトラス、中・大型トラック、ディーゼルエンジン	23.37%	1950.5	なか ざ わ ひ る ふ み 仲 澤 洋 文	〒362-8523 埼玉県上尾市大字1-1	048(781)2301
部品会社	(株)アルファ	ドアハンドル、キーセット、コインロッカー	30.44%	1938.4	たか 高 は し きん いち 高 橋 欽 一	〒236-0004 神奈川県横浜市金沢区福浦1-6-8	045(787)8400
	池田物産(株)	シート・内装品の製造、販売	38.98%	1948.5	みや た すすむ 宮 田 進	〒252-1121 神奈川県綾瀬市小園町771	0467(70)0512
	(株)エクセディ	クラッチ、トルクコンバーター、トランスミッション部品	23.41%	1950.7	なか の たけし 中 野 健	〒572-8570 大阪府寝屋川市木田元宮1-1-1	0720(22)1151
	(株)大井製作所	ドアロック、ドアヒンジ、ウィンドレギュレーター	29.59%	1943.8	なら むら まさる 樫 村 勝	〒235-8588 神奈川県横浜市磯子区丸山1-14-7	045(757)7000
	河西工業(株)	自動車内装品(ドアトリム、インシュレーター、サンバイザー)	21.27%	1946.10	ふじ た ぜん そう 藤 田 善 三	〒253-0106 神奈川県高座郡寒川町宮山3316	0467(75)1111
	カルソニックカンセイ(株)	カーエアコン、ラジエーター、マフラー、内外装部品、メーター、ハーネス、エアバッグ	34.35%*2	2000.4	たか たか こう 高 木 孝 一	〒164-8602 東京都中野区南台5-24-15	03(5385)0111
	鬼怒川ゴム工業(株)	自動車用ゴム、合成樹脂製品	21.08%	1939.10	せき ね とし ひこ 関 根 俊 彦	〒263-0005 千葉県千葉市稲毛区長沼町330	043(259)3111
	桐生機械(株)	自動車用鋳物部品、NC、工作機械	36.88%	1906.12	なか がわ とし お 中 川 敏 男	〒326-0142 栃木県足利市小保南町2	0284(62)2321
	(株)佐賀鉄工所	ボルト類	33.40%	1938.11	かつ や たつ そう 勝 谷 辰 三	〒251-0017 神奈川県藤沢市高谷129-3	0466(27)1721
	(株)ザナビ・インフォマティクス	ナビゲーション・オーディオの開発、生産、販売	49.00%	1991.1	ふじ い あつし 藤 井 篤	〒228-0012 神奈川県座間市広野台2-4991	046(259)1300
	自動車電機工業(株)	電装品(ワイパー、リレー、パワーウィンドウスイッチ、車速制御装置)	22.73%	1947.9	うら べ よし みち 占 部 吉 真	〒245-8510 神奈川県横浜市戸塚区東俣野町1760	045(853)7501
	ジヤトコ・トランステクノロジー(株)	トランスミッションの開発、製造、販売	99.71%	1999.10	さ さ き けん いち 佐々木 健 一	〒417-8585 静岡県富士市今泉字鴨田700-1	0545(51)0047
	(株)テネックス	エアクリナー、オイルフィルター、コンバーター	56.69%	1945.7	あら き のぶ お 荒 木 宣 夫	〒350-1155 埼玉県川越市下赤坂591	0492(66)7612
	栃木富士産業(株)	ビスココントロールユニット、デフロック、ハブロック	20.45%	1952.6	くり はら よし がず 栗 原 義 一	〒328-8502 栃木県栃木市大宮町2388	0282(27)1111
	ナイルス部品(株)	各種スイッチ、リレー、電子部品	40.00%	1954.3	すず き たけ とし 鈴 木 武 利	〒143-8521 東京都大田区大森西5-28-6	03(3763)0333
	日産工機(株)	エンジン、アクスル、マリーン・産業機械エンジン	91.82%	1964.9	みや もと きよし 宮 本 清 潔	〒253-0105 神奈川県高座郡寒川町岡田6-6-1	0467(75)1711
	日本プラスト(株)	ステアリングホイール、コンソールボックス、エアバッグ	26.57%	1948.10	ひろ せ まこと 廣 瀬 信	〒417-0047 静岡県富士市青島町218	0545(52)0481
	橋本フォーミング工業(株)	モールディング、ドアサッシュ、フィニッシャー、ホイールカバー	28.44%	1939.12	と た くに お 田 邦 男	〒245-8511 神奈川県横浜市戸塚区上矢部町320	045(811)1211
	(株)フジユニバンス	トランスミッション、4WD用トランスファー	31.47%	1937.3	すず き い わ お 鈴 木 一 和 雄	〒431-0431 静岡県湖西市鷺津2418	053(576)1311
	(株)ユニシアジェックス	ピストン、クラッチ、パワーステアリング、ABS(アンチロックブレーキシステム)、エンジン電子集中制御システム	26.09%	1956.5	とう た こういちろう 任 田 晃 一郎	〒243-8510 神奈川県厚木市恩名1370	046(225)8025
ユニプレス(株)	プレス部品(ガソリタンク、ラジエーターコアサポート、ピラー・レール類等)、精密プレス部品	30.80%	1998.4	てら もり ひこ 寺 田 盛 彦	〒416-8510 静岡県富士市五味島19-1	0545(62)5020	
(株)ヨロズ	プレス部品(サスペンションメンバー、オイルパン、マルチリンクサスペンション)	31.18%	1948.4	し ど お あき ひこ 志 藤 昭 彦	〒222-8560 神奈川県横浜市港北区樽町3-7-60	045(543)6800	
(株)リズム	ステアリングリンケージ、ボールジョイント、ロードセンシングバルブ	51.00%	1961.12	まえ じま けい いち 前 島 敬 一	〒430-0831 静岡県浜松市御給町283-3	053(462)2111	
金融会社	日産ファイナンス(株)	グループ各社への金融サービス業務	100.00%	1987.8	ティエリー ムロンゲ	〒104-0061 東京都中央区銀座6-16-9 日産ビルネット館1	03(3541)4821
	(株)日産フィナンシャルサービス	オートクレジット、カーリース、レンタカー、カード事業	100.00%*3	2000.7	なか むら みのる 中 村 稔	〒108-0071 東京都港区白金台3-2-10	03(5424)4111
物流会社	オーバーシーズエアカーゴ(株)	航空貨物代理店業及び利用航空運送業	60.00%	1982.4	おく の しん すけ 奥 野 信 亮	〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町12-2	03(5644)0410
	九州急行フェリー(株)	追浜/御前崎/苅田間の海上貨物運送業	42.00%	1974.8	たけ むら おさむ 竹 村 治	〒104-0061 東京都中央区銀座4-12-15歌舞伎座ビル	03(3545)2011
	日産専用船(株)	輸出自動車の海上輸送	60.00%	1965.6	すみ と も あき お 住 友 昭 夫	〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル7階	03(3543)5165
	日産プリンス海運(株)	自動車等の海上輸送	27.08%	1963.1	なが て ゆたか 長 手 裕	〒650-0033 兵庫県神戸市中央区江戸町95 リクルート神戸ビル11階	078(391)6492
	日産陸送(株)	自動車の国内運送および整備・保管業	100.00%	1961.10	いわ した よし 岩 下 世 志	〒230-0051 神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央4-9-11	045(502)1123
	(株)バンテック	自動車部品の運送、梱包、通関事業、一般貨物の倉庫保管・配送、引越事業	72.17%	1954.1	おく の しん すけ 奥 野 信 亮	〒221-0021 神奈川県横浜市神奈川区子安通3-353	045(441)8171

五十音順 上場・店頭会社

*1 日産自動車出資分と日産自動車連結子会社出資分の合計出資比率、2000年3月31日現在

*2 2000年4月1日現在

*3 2000年7月1日現在

会社名	主な製品または事業内容	出資比率*1	設立年月	代表者	住 所	TEL	
サ ー ビ ス 会 社 他	(株) イー ド	デザインに関する市場調査の企画・実施および評価・検証	100.00%	1990.10	もり や まこと 守 屋 真	〒106-0032 東京都港区六本木1-7-27 全特六本木ビル4F	03(3505)2721
	e-グラフィックス(株)	印刷、製版、製本および情報・媒体の企画、制作、販売	33.42%	1980.1	いの うえ いちろう 井 上 一郎	〒181-0002 東京都三鷹市牟礼6-25-28	0422(49)5523
	(株) エステック	解析・シミュレーションによるコンサルティング・サービス	70.00%	1989.2	やまもと これゆき 山 本 維 行	〒231-0023 神奈川県横浜市中区山下町89-1	045(661)1661
	(株) オーテックジャパン	特装車および少量限定生産車の開発、製造、販売	100.00%	1986.9	あい べ つよし 相 部 剛	〒253-8571 神奈川県茅ヶ崎市萩園824-2	0467(87)8001
	(株) キヤリオン	有料職業紹介事業	100.00%	1999.6	おお くり まこと 大 栗 誠	〒104-0061 東京都中央区銀座6-16-9 日産ビルネット館1	03(5565)2224
	(株) クリエイティブボックス	デザインリサーチおよび自動車などの商品デザイン企画	100.00%	1987.11	しば え たいお 澁 江 建 男	〒150-0001 東京都渋谷区神宮前6-31-15	03(3486)0791
	(株) ニック	ソフトウェアの開発、システムの運用、保守並びに日産圏内の情報通信ネットワークの構築、運用、保守等。	68.64%*3	2000.4	おお や いさお 大 矢 征 男	〒220-0011 神奈川県横浜市西区高島2-6-32 日産横浜ビル6F	045(451)5770
	(株) 日産アーキ	材料の分析・解析に関する業務受託とコンサルティング	74.63%	1990.12	ふな びき くにお 船 引 國 生	〒237-0061 神奈川県横須賀市夏島町1	0468(67)5280
	日産アルティア(株)	自動車用品、自動車整備用機械工具、自動車生産工場向け設備機器等の開発、販売	91.95%	1936.1	こ 小 室 きかえ 小 室 栄	〒141-8573 東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー	03(5436)2355
	(株) 日産コーエー	売店、生産設備設計・製作、環境造園、情報、印刷、保険代理業務、旅行業等	100.00%	1956.12	まつ だ くに ひろ博 松 田 邦 博	〒245-8558 神奈川県横浜市戸塚区上矢部町2384	045(814)7301
	日産人材開発センター(株)	教育企画、教育実施	100.00%	1999.7	みや はら しん 宮 原 紳	〒241-0014 神奈川県横浜市旭区市沢町910	045(373)5688
	日産スポーツプラザ(株)	健康・スポーツ関連事業、レストラン、駐車場経営	100.00%	1983.2	ふじ た しょういちろう 藤 田 松 一郎	〒140-0002 東京都品川区東品川4-10-1	03(3450)5523
	(株) 日産セキュリティ・サービス	警備(含む機械整備)、消防設備・販売およびビル管理業務	100.00%	1987.7	もり 森 そうたろう 森 荘 太郎	〒221-0013 神奈川県横浜市神奈川区新子安1-31-5	045(402)2355
	(株) 日産テクノ	設計、製図および技術資料、図面の翻訳	100.00%	1985.11	なか むら いけお 仲 村 巖	〒228-0003 神奈川県座間市ひばりが丘5-791-1	046(256)7111
	日産デジタルプロセス(株)	CAD/CAM/CAE ソフトの開発	90.00%	1987.2	ま 間 せ とし あき 間 瀬 俊 明	〒243-0018 神奈川県厚木市中町2-9-6	046(225)3923
	日産トレーディング(株)	資材、部品の輸出入	100.00%	1978.4	た ば た てつ お 田 端 鐵 男	〒108-0073 東京都港区三田3-13-16 三田43森ビル	03(5442)2311
	日産ビルネット(株)	総合ビル管理、賃貸ビル経営	100.00%	1960.11	くす 楠 み けん しょう 楠 美 憲 章	〒104-0061 東京都中央区銀座6-16-9	03(3763)2331
	日産不動産(株)	不動産事業	67.00%	1964.6	くす 楠 み けん しょう 楠 美 憲 章	〒104-0061 東京都中央区銀座7-17-2	03(3543)5051
ニッサン・モータースポーツ・インターナショナル(株)	レース、オートキャンプ等のモータースポーツ関連業務(イベント、部品等の販売)	100.00%	1984.9	あ だ ち じ ろう 安 達 二 郎	〒140-8563 東京都品川区南大井2-10-6	03(3541)4616	
横浜マリノス(株)	サッカークラブの運営、スポーツ関連事業	69.93%	1992.4	の が み しゅう ぞう 野 上 修 三	〒221-8523 神奈川県横浜市神奈川区新子安1-18-1	045(434)2331	

自動車整備専門学校

日産自動車では、自動車技術の進歩や保有台数の増加に伴う自動車の安全確保と自動車整備体制の強化という社会的要請に応えるため、全国に5校の自動車整備専門学校を開校し、優れた自動車整備士の育成を図っています。

校名	所在地・電話番号	開校時期	課程修業年限/学生定員
日産自動車整備専門学校	栃木県河内郡上三川町大字上郷2120 TEL:0285-56-3585	1983年4月	自動車整備科/2年 300名 自動車整備研究科/1年 30名
日産メカニック・ビジネス専門学校	神奈川県横浜市旭区市沢町910 TEL:045-371-2990	1989年4月	自動車整備科/2年 240名 自動車ビジネス科/2年 50名
日産愛知自動車工業専門学校	愛知県名古屋市港区港栄1-7-12 TEL:052-653-4123	1993年4月	自動車整備科/2年 200名 自動車整備研究科/1年 20名
日産学園京都自動車工業専門学校	京都府久世郡久御山町林27-6 TEL:0774-46-1123	1988年4月	自動車整備科/2年 350名 車体整備科/2年 50名 車体整備専攻科/1年 40名 自動車整備研究科/1年 20名 自動車塗装研究科/1年 20名
日産愛媛自動車工業専門学校	愛媛県松山市宮西2-8-27 TEL:089-925-0103	1977年4月	自動車整備科/2年 100名

海外主要出資会社

2000年3月末現在

地域	国名	現地法人	事業内容	当社出資比率	設立年月	代表者（00年7月1日現在）
北米	アメリカ (カリフォルニア州)	北米日産会社 Nissan North America, Inc.	北米における生産・販売 など各事業の統括及び事業全体の戦略的運営	100 %	1960. 1	社長 松村矩雄
	(テネシー州)	米国日産自動車製造会社（2000年4月より北米日産会社に統合） Nissan Motor Manufacturing Corporation U.S.A.	車両並びに部品生産	0%(北米日産100%)	1980. 7	-
	(カリフォルニア州)	日産デザイン・インターナショナル会社 Nissan Design International, Inc.	車のデザイン	0%(北米日産100%)	1979. 4	社長 Tom Semple (00年10月1日就任予定)
	(ミシガン州)	日産テクニカルセンターノースアメリカ会社 Nissan Technical Center North America, Inc.	車両開発、技術調査、車両評価、認証業務、並びに基礎研究	0%(北米日産100%)	1983. 7	社長 石田繁夫
	(カリフォルニア州)	米国日産販売金融会社 Nissan Motor Acceptance Corporation	小売金融、リース及び卸売金融	0%(北米日産100%)	1981.11	社長 石井克己
米	カナダ	カナダ日産自動車会社 Nissan Canada Inc.	車両並びに部品の輸入販売	38.3%(北米日産61.7%)	1965. 1	社長 大和田清春
		カナダ日産販売金融会社 Nissan Canada Finance Inc.	小売金融及びリース	0%(カナダ日産100%)	1990. 6	社長 大和田清春
欧州	イギリス	英国日産自動車製造会社 Nissan Motor Manufacturing (UK) Ltd.	車両並びに部品の生産	0%(欧州日産100%)	1984. 4	社長 John Cushnaghan
		日産テクニカルセンター・ヨーロッパ社 Nissan Technical Centre Europe, Ltd.	車両開発	100 %	1988. 5	社長 杉沢正基
		英国日産自動車会社 Nissan Motor (GB) Ltd.	車両、産業機械、部品の販売	0%(欧州日産100%)	1991. 3	社長 Brian Carolin
	オランダ	欧州日産会社 Nissan Europe N.V.	欧州における生産・販売 など各事業の統括及び事業全体の戦略的運営	100 %	1989. 4	-
		オランダ日産自動車会社 Nissan Motor Nederland B.V.	車両並びに部品の輸入販売	0%(欧州日産100%)	1982. 3	社長 David Archibald
	フランス	フランス日産自動車会社 Nissan France S.A.	車両、産業機械、部品の輸入販売	0%(欧州日産94.8%)	1969. 2	社長 川口均
	ドイツ	ドイツ日産自動車会社 Nissan Motor Deutschland GmbH	車両並びに部品の輸入販売	0%(欧州日産100%)	1973. 6	社長 R.Toni Pulm
	スイス	スイス日産自動車会社 Nissan Motor (Schweiz) AG	車両並びに部品の輸入販売	0%(欧州日産100%)	1985. 1	社長 Tomas H.Bucher
	スペイン	日産モートル・イベリカ会社 Nissan Motor Ibérica, S.A.	車両並びにエンジンの開発・製造	6.8%(欧州日産92.9%、その他0.3%)	1920. 3	社長 R.Boronat
スペイン日産自動車会社 Nissan Motor España, S.A.		車両並びに部品の輸入販売	0%(欧州日産100%)	1995. 1	社長 Daniel J.Young	
イタリア	イタリア日産自動車会社 Nissan Italia S.p.A.	車両並びに部品の輸入販売	0%(欧州日産100%)	1988. 1	社長 Giuliano Musumeci Greco	
アジア	台湾	裕隆汽車製造股P有限公司 Yulon Motor Co., Ltd.	車両並びに部品の生産・販売	25 %	1953. 9	会長 呉舜文
	中国	日産汽車（中国）有限公司（所在地：香港） Nissan Motor(China)Ltd.	中国向けの車両の配給、アフターサービス網の拡充整備	100 %	1994. 6	社長 近藤章夫
	タイ	サイアムニッサンオートモービル会社 Siam Nissan Automobile Co., Ltd.	商用車の生産・卸売	25 %	1973.11	社長 Phornthep Phornprapha
中南米	メキシコ	メキシコ日産自動車会社 Nissan Mexicana, S.A. de C.V.	車両並びに部品の生産・販売	99.88%	1961. 9	社長 吉岡博
中近東	アラブ首長国連邦	中東日産会社 Nissan Middle East FZE	中近東における販売マーケティングなどの諸活動の統括	100 %	1994. 6	社長 三好恭助
アフリカ	南アフリカ	オートメーカーズ社 Automakers Ltd.	日産車、日産車の南アフリカにおける生産・販売及び他地域への輸出など各事業の統括	98.8 %	1974. 9	社長 青木俊雄
大洋州	オーストラリア	豪州日産鑄造会社 Nissan Casting Australia Pty. Ltd.	アルミ鑄造部品の製造・販売	100 %	1992.10	社長 Leon P. Daphne
		豪州日産自動車会社 Nissan Motor Co. (Australia) Pty. Ltd.	車両並びに部品の輸入販売	100 %	1966. 5	社長 Leon P. Daphne